

2023年6月29日

各位

会社名 株式会社 SBI 新生銀行
代表者名 代表取締役社長 川島 克哉
(コード番号 : 8303 東証スタンダード市場)

男性社員のお小遣い額は前年比微増の 40,557 円、女性社員も増加の 35,001 円
「2023 年会社員のお小遣い調査」結果について
～男女ともにお小遣い額が 1,500 円以上増加～

当行は、20 代から 50 代の有職者の男女約 2,700 名を対象にした「2023 年会社員のお小遣い調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

「2023 年会社員のお小遣い調査」結果の主なポイント

- 【お小遣い額(毎月の平均額)】 男性社員は 40,557 円(前年比 1,915 円増加、2010 年以降初の 40,000 円台に。女性社員は 35,001 円(前年比 1,723 円増加、2014 年以降の最高額)。
- 【昼食代】 男性社員は 624 円(前年比 1 円増)。女性社員は 696 円(同、40 円増)。
- 【1 ヶ月の外での飲み代】 男性社員は 13,850 円(前年比 2,355 円増)。女性社員は 9,574 円(前年比 1,145 円増)。
- 【昼食代の支払い手段】男性・女性社員ともに「現金」がトップで、次いで「QR コード決済」となる。「QR コード決済」が「クレジットカード」を上回った。

～2023 年トピックスとして～

- ✓ 【FIRE(経済的自立と早期リタイア)】 必要と想定する貯蓄額は男性社員で「1 億円以上」が最多となる。
- ✓ 【老後のために必要と想定する資金】 男性社員と女性社員ともに「2,000 万円～3,000 万円未満」が最多となる。
- ✓ 【デジタル給与の認知】 男性・女性社員ともに「知らない」が 3 割半ば、「既に利用している」はともに 2%未満と実際の利用は低い水準にとどまる。

- 【お小遣い額(毎月の平均額)】 男性社員は前年比増で 2010 年以来初の 40,000 円台になり、女性社員も前年比増で 2014 年以降の最高額になった
男性社員の月額平均お小遣い額は、40,557 円と前年比 1,915 円の増加となりました。2010 年以降、初の 40,000 円台となりました。年代別では、20 代・40 代で増加し、30 代・50 代は減少するなど、世代間で差が出る結果となりました。この 1 年間のお小遣い額の変化では、変化があった社員は「アップした」が 6.9%(前年は 6.4%)、「ダウンした」が 9.3%(同、13.3%)と、ダウンした社員の割合が前年よりも少ない結果となりました。
一方、女性社員のお小遣い額は、前年より 1,723 円増加し、35,001 円となり、最も高い 2014 年(36,712 円)に次ぐ金額となっております。年代別では 20 代が最も高く 39,980 円と男性社員の平均額とほぼ同水準となりました。
- 【昼食代】 男性社員は微増・女性社員は増加、女性社員の昼食代が前年に引き続き男性社員を上回る結果に
男性社員の 1 日の昼食代は、前年の 623 円から 1 円増加し、624 円となりました。微増となったものの、2010 年以降で 2 番目に高い水準です。年代別にみると、20 代で 684 円と最も高くなっております。
女性社員の 1 日の昼食代は、前年の 656 円から 40 円増加し、696 円となりました。4 年連続の増加となり、2014 年の調査開始以来最も高い金額となっております。
男性社員と女性社員ともに持参弁当の割合が最も高く、男性で 34.5%、女性で 48.8%を占める結果となりました。

- **【1ヵ月の外での飲み代】 男性・女性会社員ともに前年から増加**
男性会社員の1ヵ月の外での飲み代は、13,850円(前年比、2,355円増)、女性会社員は9,574円(同、1,145円増)と、男女ともに前年から増加する結果に。
- **【昼食代の支払い手段】 「現金」がトップ。「QRコード決済」が「クレジットカード」を上回る結果に**
男性会社員の昼食代の支払い方法は、「現金」が71.7%で最も高く、「QRコード決済」38.8%、「クレジットカード」38.1%と続きます。女性会社員の昼食代の支払い方法は、「現金」が68.2%で最も高く、「QRコード決済」44.5%、「クレジットカード」36.1%と続きます。前年は男性会社員と女性会社員ともに「クレジットカード」が「QRコード決済」を上回っていました。一方で、今年は「QRコード決済」が「クレジットカード」を上回る結果になり、「QRコード決済」の普及具合が伺えます。
- ✓ **【FIRE(経済的自立と早期リタイア)】 男性会社員で3割半、女性会社員で4割強が「知らない」と回答。FIREに必要と想定する貯蓄額は男性会社員で「1億円以上」が最多**
FIREについて、男性会社員は「知らない」が35.1%、女性会社員は42.4%と男性会社員より7ptほど非認知率が高くなっています。また、FIREに必要と想定する貯蓄額は、男性会社員で「1億円以上」、女性会社員では「5,000万円～1億円未満」がトップで、男女で必要と想定する貯蓄額に開きがあることがわかります。
- ✓ **【老後資金】 男性・女性会社員ともに「考えてはいるが、具体的な行動の目的はない」がトップで、老後に必要と想定する資金額はともに「2,000万円～3,000万円未満」が最多**
老後資金について、男性会社員は「考えてはいるが、具体的な行動の目的はない」が31.6%でトップ、女性会社員は同項目が42.2%でトップとなり、関心はあるが具体的な行動を起こしていない層が主流となっております。また老後のために必要と想定する資金額は男性・女性会社員ともに「2,000万円～3,000万円未満」がトップでともに3割弱となっております。
- ✓ **【デジタル給与の認知】 男性・女性会社員ともに「知らない」が3割半ば、「既に利用している」はともに2%未満と低い水準にとどまる**
デジタル給与について、男性会社員は「知らない」が34.5%と最も高く、「内容まで知っているが、利用したいとは思わない」が30.0%と続き、「既に利用している」は1.8%にとどまる結果となっております。女性会社員は「知らない」が36.3%と最も高く、「名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない」が27.9%と続き、「既に利用している」は1.9%にとどまる結果となっております。デジタル給与の利用は男性・女性会社員ともに2割未満と低い水準にとどまっています。

本調査の詳しい調査結果については、別添「2023年会社員のお小遣い調査詳細レポート」をご参照ください。

以上

お問い合わせ先
SBI新生銀行 グループ IR・広報部
報道機関のみなさま: SBIShinsei_PR@sbishinseibank.co.jp
株主・投資家のみなさま: SBIShinsei_IR@sbishinseibank.co.jp

別添

2023年
会社員のお小遣い調査
詳細レポート

2023年 会社員のお小遣い調査概要

2023年のお小遣い額は
男性会社員と女性会社員ともに増加という結果に
男性会社員は40,557円(前年比1,915円増加)
女性会社員は35,001円(前年比1,723円増加)

- 男性会社員の毎月の平均お小遣い額は40,557円と、13年ぶりに4万円台を超える金額となった。
- 女性会社員の毎月の平均お小遣い額は35,001円と、前年より1,723円増加し、最も高い2014年(36,712円)に次ぐ金額となった。
- 男性会社員と女性会社員の毎月の平均お小遣い額の差は、5,556円。
- 男性会社員の1日の平均昼食代は前年比1円増加し624円、女性会社員は40円増加し696円。
- 男性会社員の1回あたりの飲み代は5,770円、自宅で飲む方の3,359円より2,411円高い結果に。女性会社員の1回あたりの飲み代は4,924円、自宅で飲む方の2,178円より2,746円高い結果に。
- お小遣いの使い道としては、男性会社員と女性会社員ともにトップは「昼食代」、次いで「携帯電話代」という結果に。最も金額が高いのは、男女ともに「趣味の費用」で、男性会社員で12,067円、女性会社員で10,777円の月々の支出となった。
- 「FIRE(経済的自立と早期リタイア)」について男性会社員で3割半、女性会社員で4割強が「知らない」と回答。FIREに必要と想定する貯蓄額は男性会社員で「1億円以上」が最多に。
- 「老後資金」について男性・女性会社員ともに「考えてはいるが、具体的な行動の目途はない」がトップで、老後に必要と想定する資金額はともに「2,000万円～3,000万円未満」が最多に。
- 「デジタル給与」については、男性会社員と女性会社員ともに「認知あり」が6割半ば前後となった。すでにデジタル給与を利用している割合は、男女ともに2%未満という低い水準にとどまる。

■2022年度の国内景気動向

2022年度初頭の日経平均株価は2万7,000円台からスタートしました。欧米各国の中央銀行によるインフレ抑制のための急速な利上げや、ウクライナ情勢の緊迫化等の地政学リスクの高まりが世界的に株式市場の逆風となったとみられる一方、日本銀行が概ね大規模な金融緩和策を維持したことや、円安等を背景とした企業業績の改善、全国旅行支援や水際対策緩和といった国内での社会・経済活動正常化に向けた動きの進展などが国内株式市場を下支えしたとみられ、概ね底堅い値動きとなりました。

景気の見方について、2022年度の国内の実質GDPは前年度比1.4%増加となりました。物価高騰や欧米各国の金利引き締めなどによる世界的な景気減速の影響を受けつつも、緩やかな経済の持ち直しが続いています。2022年度の国内物価は、2022年2月以降のウクライナ情勢の緊迫化等を背景とした、エネルギーや原材料価格の高騰により、インフレが加速しました。総務省が発表した「2022年12月消費者物価指数」は、生鮮食品を除く総合ベースで前年同月比4.0%上昇し、第2次オイルショックの影響があった1981年以来41年ぶりの水準となりました。

賃金面においては、厚生労働省が発表した2022年度の「毎月勤労統計調査」によると、名目賃金指数が前年度比1.9%増加、物価変動を除いた実質賃金指数は同1.8%減少となりました。同じく厚生労働省が発表した2022年の「賃金構造基本統計調査」によると、一般労働者の月額賃金は男性34万2,000円(前年比1.4%増加)、女性25万8,900円(同2.1%増加)となりました。

■2023年度の日本経済見通し

当行は、回復余地が大きいサービス消費を中心とした個人消費の持ち直しや、業績が堅調な企業による設備投資の増加、インバウンド需要の回復などを背景に、2023年度の日本の実質GDPは前年度比+1.2%(注)と、段階的な回復を見込んでいます。もっとも、2022年度に引き続き、物価高や海外景気減速といった国内経済の下振れリスクが大きいことには留意が必要です。また2023年度の賃金の見通しとしては、2023年春闘の中間集計結果によると(2023年6月5日公表)、基本給を底上げするベースアップ(ベア)実施額は2,919組合の賃上げ額平均で6,029円となり(引き上げ率は2.14%)、前年同時期の実施額と率(賃上げ額1,862円、引き上げ率0.63%)を大きく上回りました。

■ 2023年会社員のお小遣い調査

2023年の「会社員のお小遣い調査」では、男性会社員のお小遣いが前年の38,642円から1,915円増加して40,557円となりました。男性会社員のお小遣いを年代別にみると、20代が最も高く46,459円と4万円台後半のお小遣い額となりました。女性会社員のお小遣い額は、昨年より1,723円増加し35,001円となり、2014年(36,712円)に次ぐ高水準となりました。また男性会社員と同様に20代が最も高く39,980円と4万円近い金額となっています。

ライフステージ別では、未婚の男性会社員のお小遣いが最も高く47,484円となっています。一方で、子どもあり世帯では3万円弱~3万6,000円台となり、子育て・教育費の家計への負担が重い世帯において、お小遣い額が低い結果となっています。

男性会社員の一日の昼食代は、昨年の623円から1円増加し624円となり、昨年と同水準となりました。女性会社員の一日の昼食代は、昨年より40円増加して696円となり、2014年の調査開始以来最も高い金額となっております。

お小遣いの使い道としては、男性会社員と女性会社員ともにトップは「昼食代」、次いで「携帯電話代」という結果になり、最も金額が高いのは、男女ともに「趣味の費用」で、男性会社員で12,067円、女性会社員で10,777円の月々の支出となりました。

＜調査設計＞

- 調査時期 2023年4月25日～4月28日の4日間
- 調査方法 インターネットによる調査(株式会社マクロミルに依頼し、全国からサンプルを収集)
- 調査エリア 全国
- 調査対象者 会社員(正社員・契約社員・派遣社員)、パート・アルバイト
- サンプル数 合計2,718名
 - 会社員 男性:1,252名、女性:842名
 - パート・アルバイト 男性:312名、女性:312名

	男性 会社員		女性 会社員		男性 パート・アルバイト		女性 パート・アルバイト	
	N	%	N	%	N	%	N	%
20代	313	25%	211	25%	78	25%	78	25%
30代	313	25%	210	25%	78	25%	78	25%
40代	313	25%	211	25%	78	25%	78	25%
50代	313	25%	210	25%	78	25%	78	25%
総計	1,252	100%	842	100%	312	100%	312	100%

※会社員、女性パート・アルバイトは、年代均等にて割付回収しています。

※男性パート・アルバイトは年代均等になるよう、集計時に補正をしています。

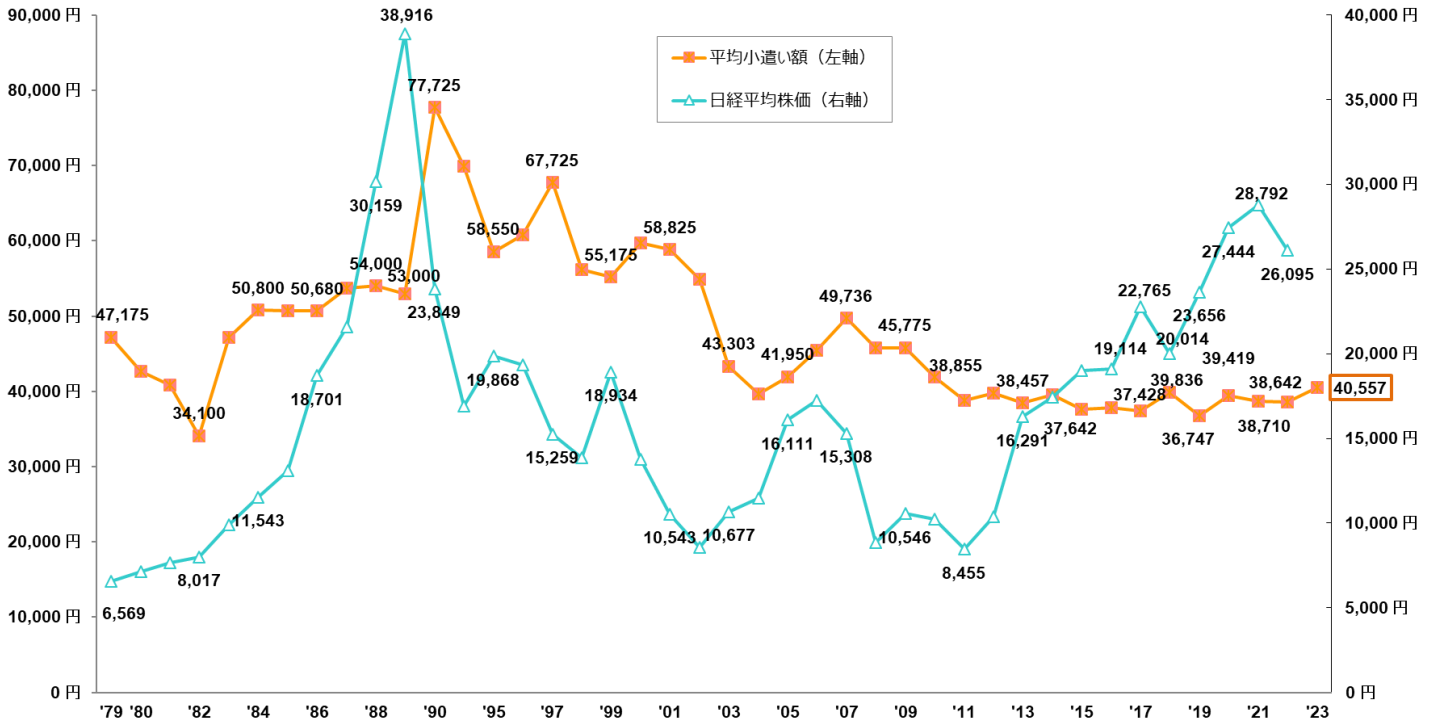
(本レポートは、補正後のスコアを掲載しています)

※性別について「その他・答えたくない」と回答した人も対象としていますが、n=103のため分析軸に入れていません。

＜目次＞

【1】 会社員のお小遣い.....	6
【2】 会社員の昼食事情.....	12
【3】 会社員の飲み事情.....	16
【4】 経済的なゆとり.....	20
【5】 お小遣いの使いみち、やりくり術.....	22
【6】 会社員の給与管理状況.....	27
【7】 支払い手段.....	31
【8】 投資状況.....	33
【9】 FIRE(経済的自立と早期リタイア)についての認知及び実施状況.....	35
【10】 老後資金についての検討状況.....	38
【11】 デジタル給与についての認知及び実施状況.....	42
【12】 パート・アルバイトの基本データ.....	44

日経平均株価と会社員の平均お小遣い額の推移 (1979年～2023年)



- 1978年以前と、1991年および1993年、1994年については調査を実施していません。
- グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。

【1】 会社員のお小遣い

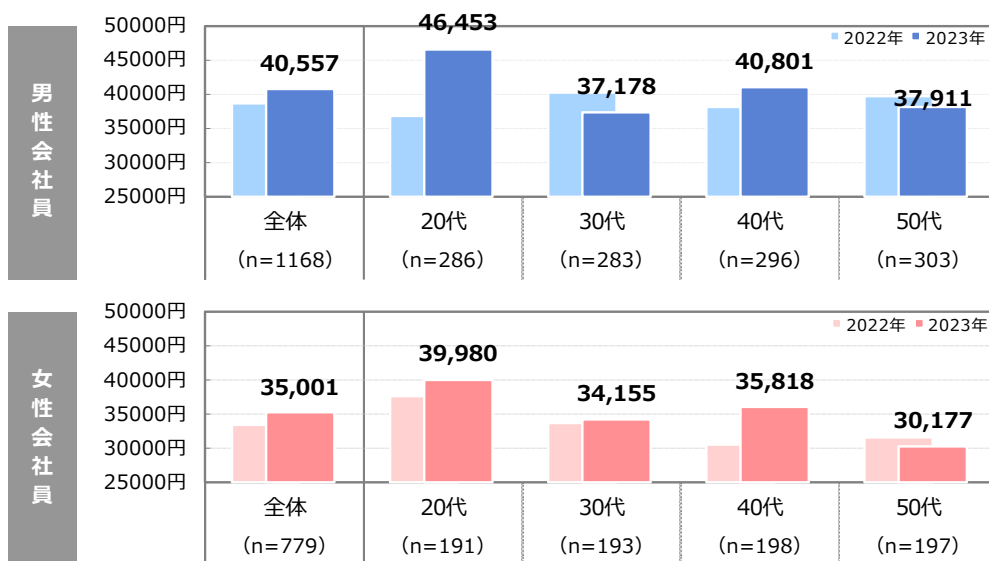
- ▶ 男性会社員の月平均お小遣い額は40,557円と、13年ぶりに4万円台を超える
- ▶ 女性会社員は昨年比で1,723円増加し35,001円となり、最も高い2014年(36,712円)に次ぐ結果となった
- ▶ 男女ともに20代と40代は増加し、50代ではやや減少
- ▶ 男性会社員では、ライフステージ別で中高生がいる世帯においては2万円後半にとどまる

■ 月の平均お小遣い額

男性会社員の月の平均お小遣い額は、昨年の38,642円から1,915円増の40,557円となりました。年代別にみると、特に20代で大幅に増加、また40代で増加しておりますが、30代と50代では減少しております。

一方、女性会社員のお小遣い額は、昨年の33,278円から1,723円増の35,001円となりました。年代別にみると、特に40代で大幅に増加、また20代で増加しておりますが、50代ではやや減少しております。

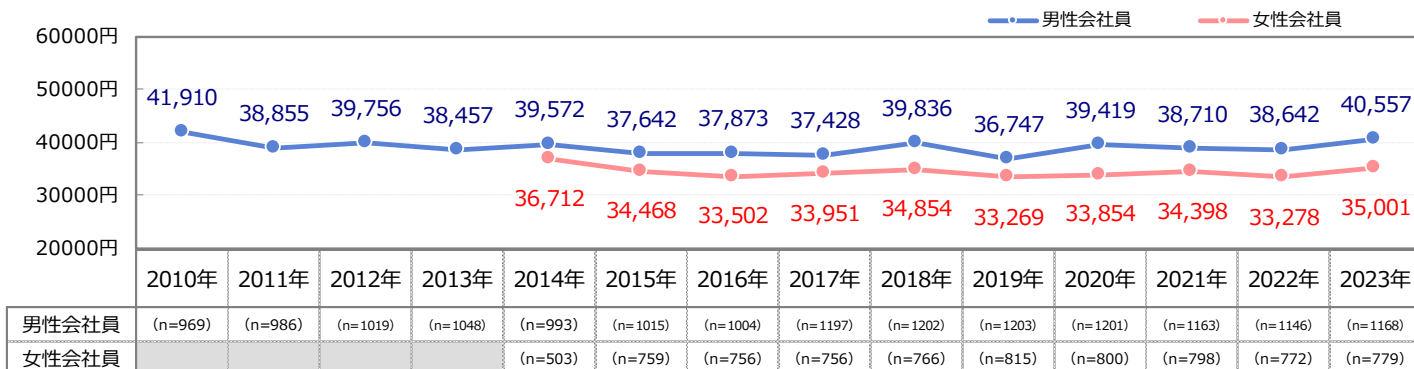
設問：あなたの「一カ月の“おこづかい”はいくらですか？(昼食代含む)



男性会社員における近年のお小遣い額は、2020年から2022年まで微減している状況が続いていましたが、2022年から2023年にかけては増加して推移しております。最も高い2010年(41,910円)に次ぐ金額となっております。

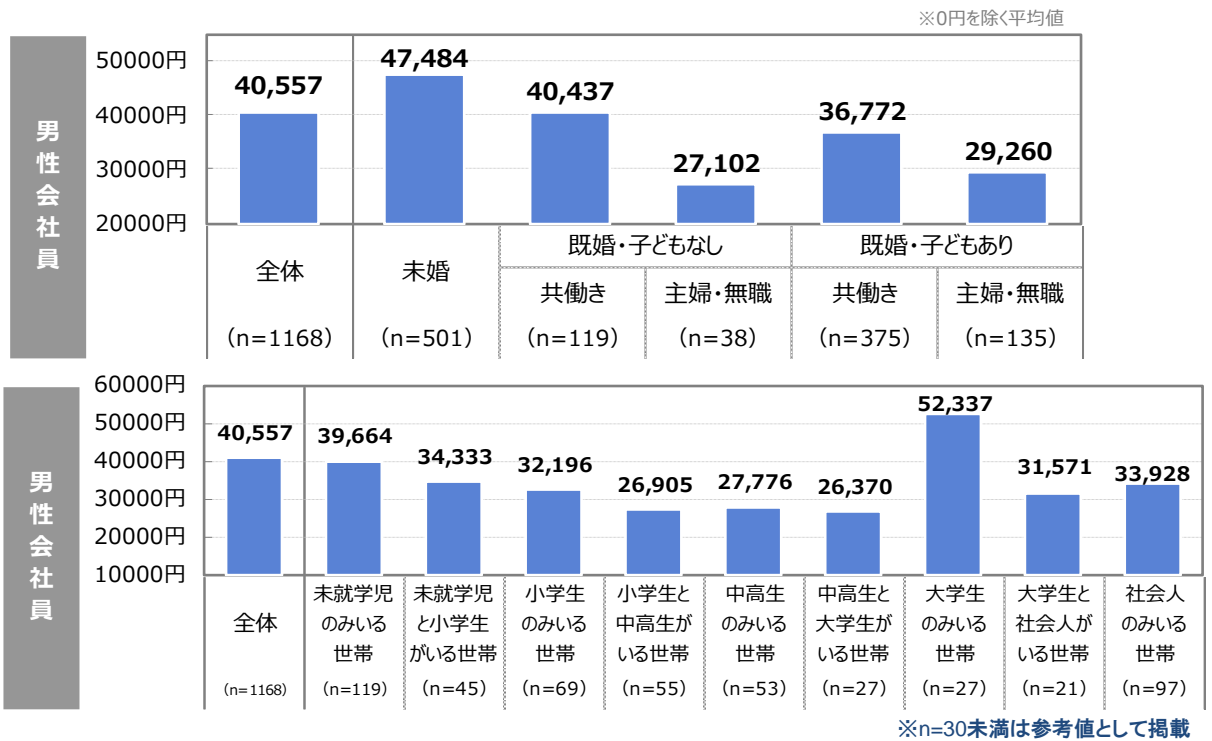
女性会社員のお小遣い額も男性会社員と同様、2021年から2022年まで微減している状況が続いていましたが、2022年から2023年にかけては増加して推移しております。最も高い2014年(36,712円)に次ぐ金額となっております。

■ 平均お小遣い額の時系列推移(2010年～2023年)



男性社員の平均お小遣い額をライフステージ別にみると、未婚者では4万7千円台となっており、既婚者と比べてお小遣い額が高い結果となりました。

設問：あなたの一か月の“おこづかい”はいくらですか？（昼食代含む）

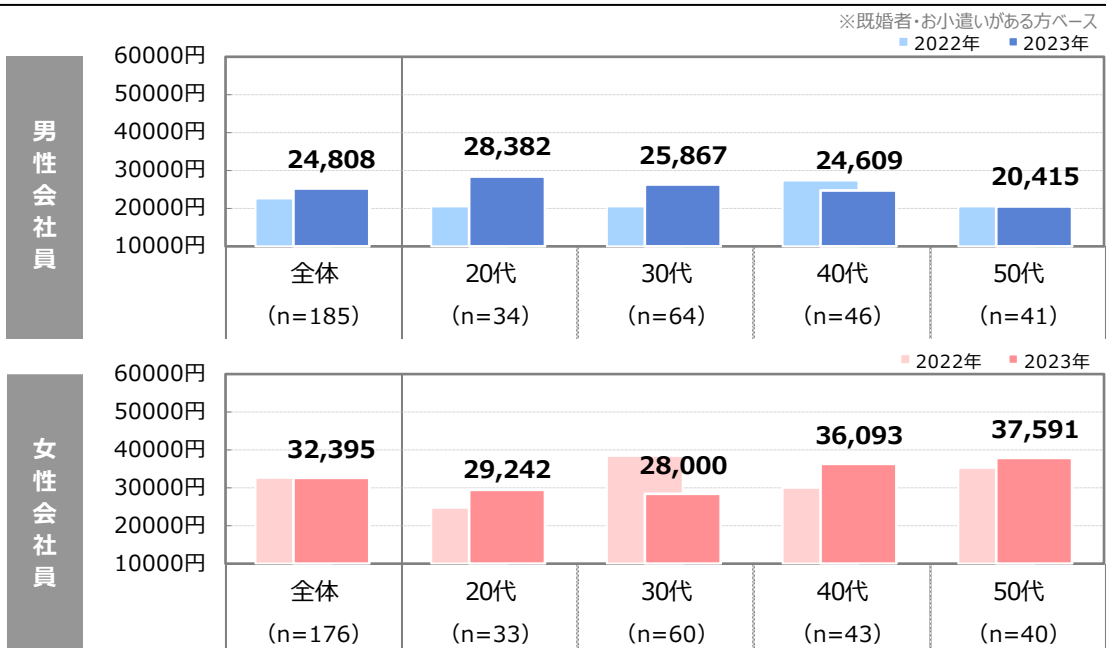


■ 配偶者（パートナー）のお小遣い額

男性社員の配偶者（パートナー）のお小遣い額は、昨年より2,490円増加し、24,808円となっております。年代別では、20代が28,382円と最も高い金額となっております。

一方、女性社員の配偶者（パートナー）のお小遣い額は、98円減少し、32,395円となっております。また、年代別にみると、50代が37,591円と最も高い金額となっております。

設問：配偶者（パートナー）の一か月の“おこづかい”はいくらですか？（昼食代含む）



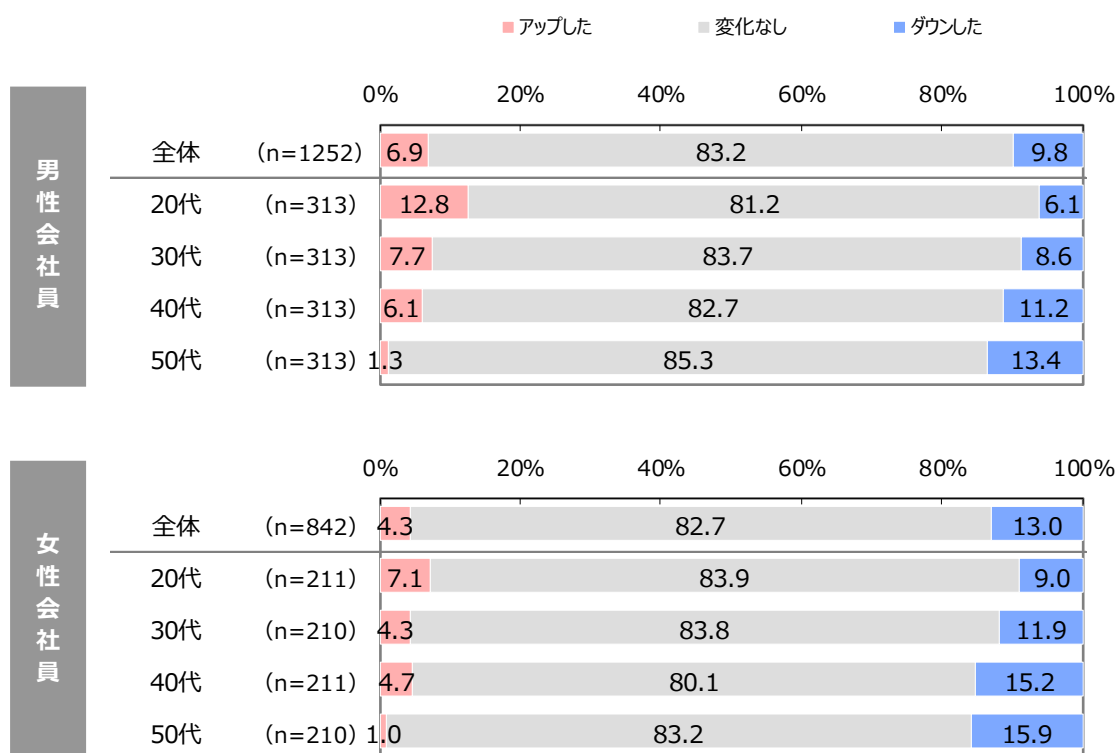
■ お小遣い額の変化

男性会社員では、この1年でお小遣い額に変化があった方は限定的で、「変化なし」が8割半ばという結果でした。変化があった方では、「アップした」が6.9%、「ダウンした」が9.8%と、ダウンした方の割合がやや多い結果となっております。年代別にみると、若年の方ほど「アップした」の割合が高まり、20代では12.8%となります。

一方、「ダウンした」の割合は、50代で13.4%と最も多くなります。

女性会社員についても、多くの方が「変化なし」という結果は、男性会社員と同様です。ただし、「ダウンした」の割合が13.0%と男性会社員よりやや高めで、特に50代で15.9%と最も多くなります。

設問：この一年(2022年4月～2023年3月)の間に、あなたの“おこづかい”はどのように変化しましたか？



■ お小遣いに変化があった方のプロフィール

男性社員のこの1年でお小遣いがアップした方(6.9%)とダウンした方(9.8%)のプロフィールを、男性社員全体と比較したものが以下となります。ここから、お小遣いに変化があった方がどのような方なのかを確認します。

まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が46.0%を占め、若年層寄りの傾向が顕著です。年収では、個人年収・世帯年収ともに全体より高く、特に世帯年収は全体と約100万円の開きがあります。家族構成では未婚層の割合が高い傾向がみられます。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は50代が多く、年収は、個人年収・世帯年収ともに全体より低い結果となっております。

	男性社員 全体 (n=1252)	お小遣いがアップした方 (n=87)	お小遣いがダウンした方 (n=123)
年齢	<ul style="list-style-type: none"> 20代 25.0% 30代 25.0% 40代 25.0% 50代 25.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 20代 46.0% 30代 27.6% 40代 21.8% 50代 4.6% 	<ul style="list-style-type: none"> 20代 15.4% 30代 22.0% 40代 28.5% 50代 34.1%
年収	個人年収 516 万円 世帯年収 678 万円	個人年収 549 万円 世帯年収 770 万円	個人年収 424 万円 世帯年収 552 万円
家族構成	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 43.5% 既婚 子なし 10.1% 既婚 子なし 3.4% 既婚 子あり 31.2% 既婚 子あり 11.8% 	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 50.6% 既婚 子なし 12.6% 既婚 子なし 32.2% 既婚 子あり 4.6% 	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 51.2% 既婚 子なし 6.5% 既婚 子なし 2.4% 既婚 子あり 29.3% 既婚 子あり 10.6%
給与管理状況 ※既婚者ベース	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 57.3% 一定額を家庭に入れる 26.8% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 11.4% 自分で自由に使っている（家庭には入れず） 4.4% (n=708)	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 34.9% 一定額を家庭に入れる 44.2% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 16.3% 自分で自由に使っている（家庭には入れず） 4.7% (n=43)	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 55.0% 一定額を家庭に入れる 26.7% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 16.7% 自分で自由に使っている（家庭には入れず） 1.7% (n=60)

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

女性社員では、この1年でお小遣いがアップした方は4.3%、ダウンした方は13.0%という結果になりました(P8参照)。

女性社員全体と比較して、プロフィールの特徴をみると、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が41.7%を占め、若年層寄りの傾向がみられます。個人年収・世帯年収ともに女性社員全体を上回る金額となっており、特に世帯年収は全体と約100万円の開きがあります。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は40代と50代が多く、年収は個人年収・世帯年収ともに全体より低い結果となっております。

	女性社員 全体 (n=842)	お小遣いがアップした方 (n=36)	お小遣いがダウンした方 (n=109)
年齢	<ul style="list-style-type: none"> 20代 25.1% 30代 24.9% 40代 25.1% 50代 24.9% 	<ul style="list-style-type: none"> 20代 41.7% 30代 25.0% 40代 27.8% 50代 5.6% 	<ul style="list-style-type: none"> 20代 17.4% 30代 22.9% 40代 29.3% 50代 30.5%
年収	個人年収 346 万円 世帯年収 620 万円	個人年収 388 万円 世帯年収 714 万円	個人年収 299 万円 世帯年収 549 万円
家族構成	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 56.8% 既婚 子なし 共働き 13.9% 既婚 子なし 主婦/無職 0.5% 既婚 子あり 共働き 28.2% 既婚 子あり 主婦/無職 0.6% 	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 41.7% 既婚 子なし 共働き 25.0% 既婚 子あり 主婦/無職 33.3% 	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 55.2% 既婚 子なし 共働き 11.0% 既婚 子あり 主婦/無職 32.9% 既婚 子あり 主婦/無職 0.9%
給与管理状況 ※既婚者ベース	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 32.2% 一定額を家庭に入れる 38.8% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 16.6% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 12.4% (n=363)	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 9.5% 一定額を家庭に入れる 71.4% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 14.3% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 4.8% (n=21)	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 42.9% 一定額を家庭に入れる 32.7% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 6.1% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 18.4% (n=49)

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

※n=30未満は参考値として掲載

■ お小遣い額がアップした理由・ダウンした理由

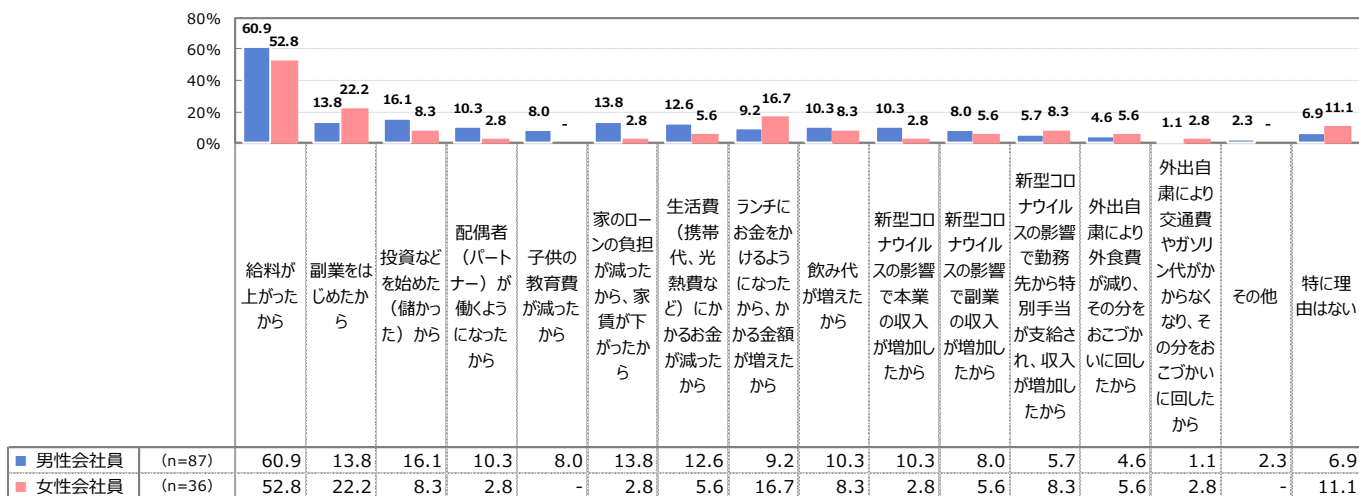
この1年でお小遣いがアップした方(男性会社員:6.9%、女性会社員4.3%)の理由が以下となります(P8参照)。

男性会社員におけるお小遣いがアップした理由は、「給料が上がったから」が60.9%で最も高く、「投資などを始めたから」16.1%、「副業を始めたから」と「家のローンの負担が減ったから、家賃が下がったから」各13.8%が続く結果となりました。

女性会社員では男性会社員と同じく、「給料が上がったから」が52.8%で最も高く、「副業を始めたから」が22.2%となっており、男女ともに収入アップの理由として「副業」が上位に挙がる点が特徴的です。

設問：おこづかいがアップした要因としてあてはまるものをすべてお選び下さい。

※お小遣いがアップした方ベース



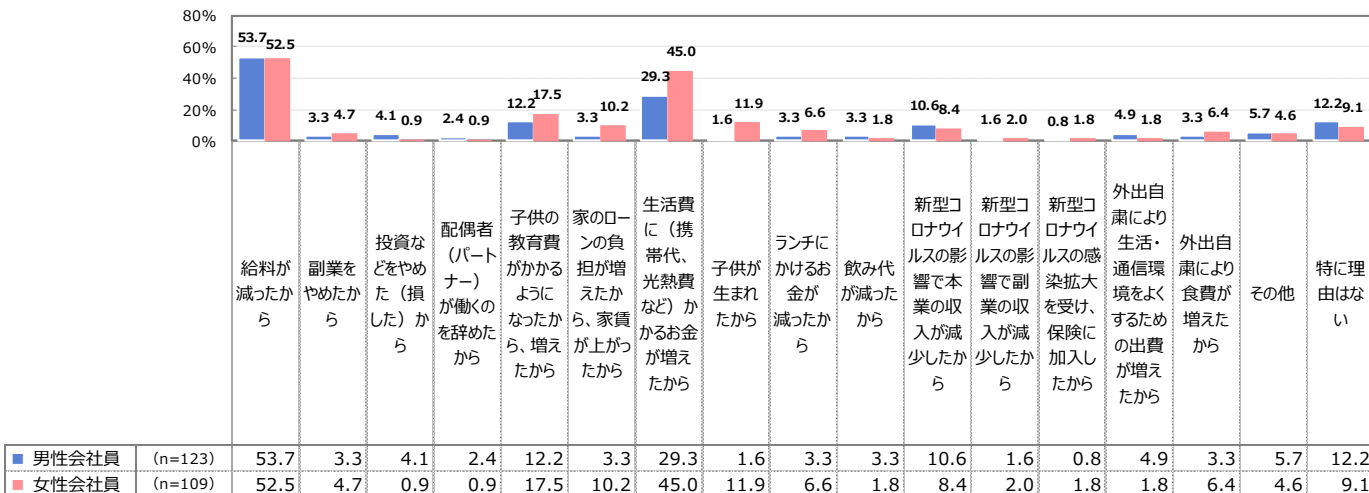
また、この1年でお小遣いがダウンした方(男性会社員:9.8%、女性会社員13.0%)の理由が以下となります(P8参照)。

男性会社員におけるお小遣いがダウンした理由は、「給料が減ったから」が53.7%で最も高く、「生活費にかかるお金が増えたから」29.3%、「子供の教育費がかかるようになったから、増えたから」12.2%が続く結果となりました。

また、女性会社員の理由は、男性会社員同様、「給料が減ったから」が52.5%で最も高く、「生活費にかかるお金が増えたから」45.0%、「子供の教育費がかかるようになったから、増えたから」17.5%と続いております。

設問：おこづかいがダウンした要因としてあてはまるものをすべてお選び下さい。

※お小遣いがダウンした方ベース



【2】 会社員の昼食事情

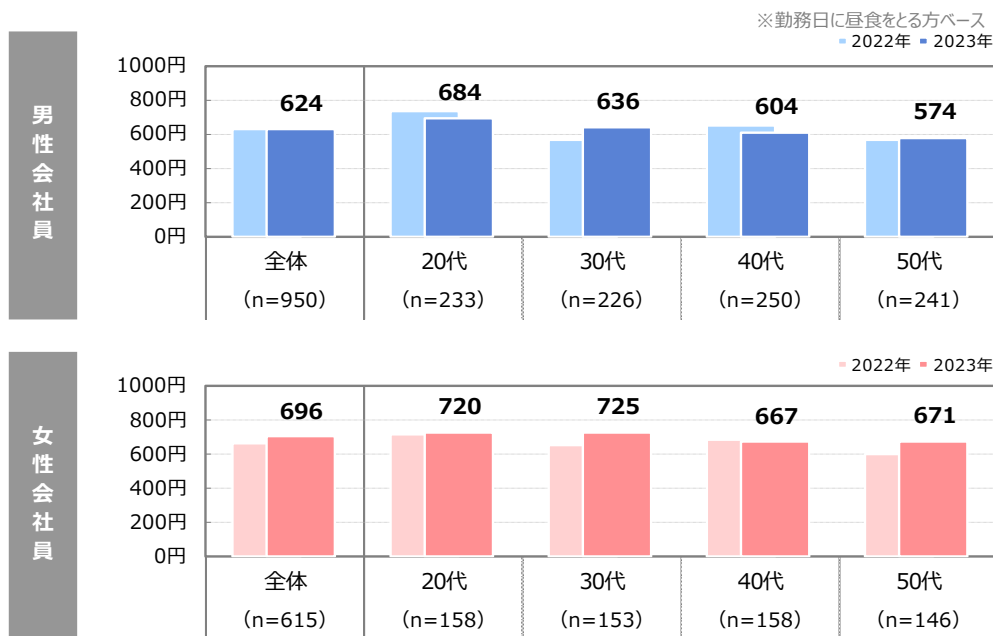
- ▶ 男性会社員の昼食代は624円と昨年の623円とほぼ同水準、女性会社員は昨年より40円増加し696円となり、女性会社員の昼食代が男性会社員を上回る結果に
- ▶ 男性・女性会社員ともに持参弁当の割合が最も高く、男性で33.5%、女性で44.8%を占める
- ▶ ランチタイムの過ごし方トップは男女ともに「インターネットの閲覧」となっている

■ 一日の平均昼食代

男性会社員の一日の昼食代は、昨年の623円から1円増加し、624円となりました。
年代別にみると、20代で684円と最も高くなっております。

女性会社員の一日の昼食代は、昨年の656円から40円増加し、696円となりました。
年代別にみると、30代で725円と最も高くなっております。

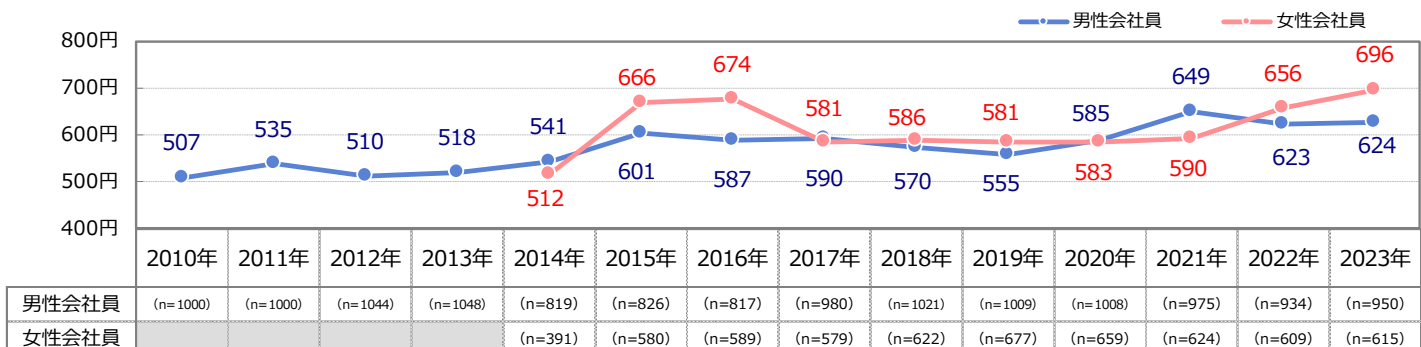
設問：昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参や、在宅勤務でお昼を作る時除く)



男性会社員における直近の昼食代の傾向は、昨年からはほぼ横ばいで1円上昇、引き続き600円は超えており、高い水準となっております。

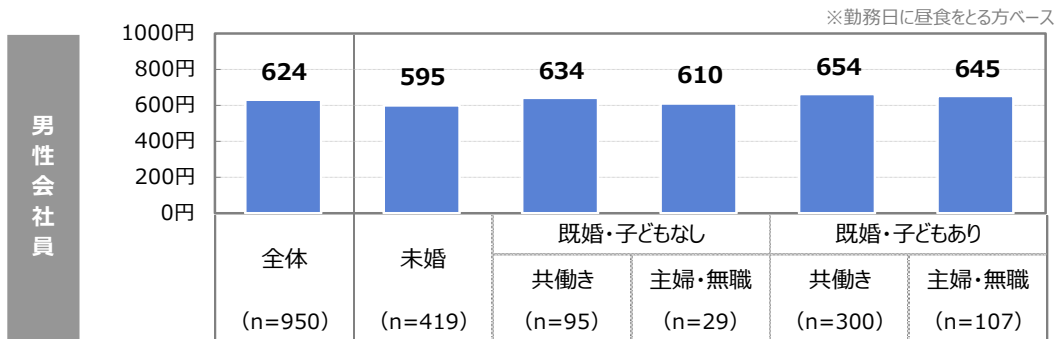
一方、女性会社員の平均昼食代は、昨年より40円増加して、2014年の調査開始以来最も高い金額となっております。

■ 平均昼食代の時系列推移(2010年～2023年)



男性会社員の一日の昼食代をライフステージ別にみると、既婚・子どもあり・共働きが654円と最も高い金額となっております。既婚者は全て600円台ですが、未婚は595円に留まる結果となりました。

設問：昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参や、在宅勤務でお昼を作る時除く)

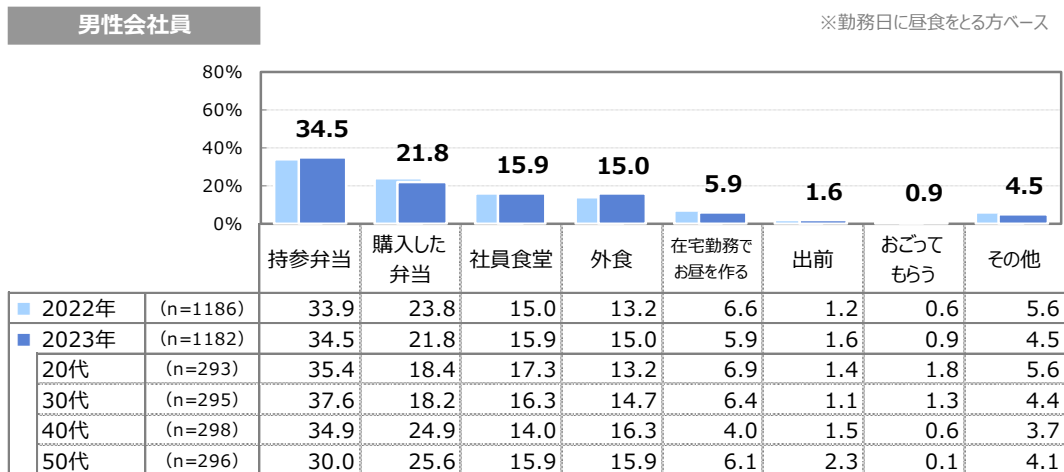


■ 昼食の内訳

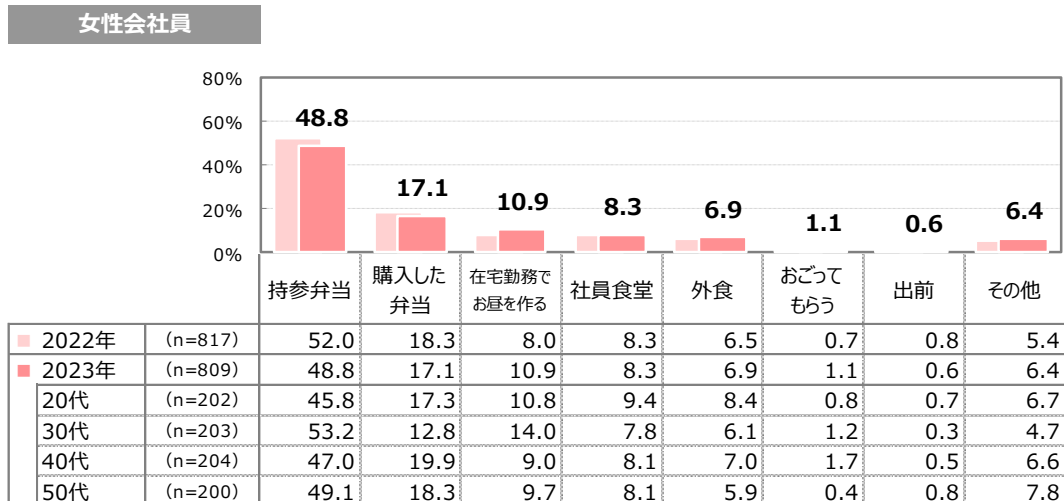
男性会社員における、昼食の内訳トップ3は、「持参弁当」34.5%、「購入した弁当」21.8%、「社員食堂」15.9%の順で、昨年と比較して大きな変化はみられませんでした。

女性会社員では、「持参弁当」48.8%、「購入した弁当」17.1%、「社員食堂」10.9%の順となっております。

設問：あなたの平均的な一週間の昼食(勤務日)のそれぞれの回数の内訳を教えてください。



※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示



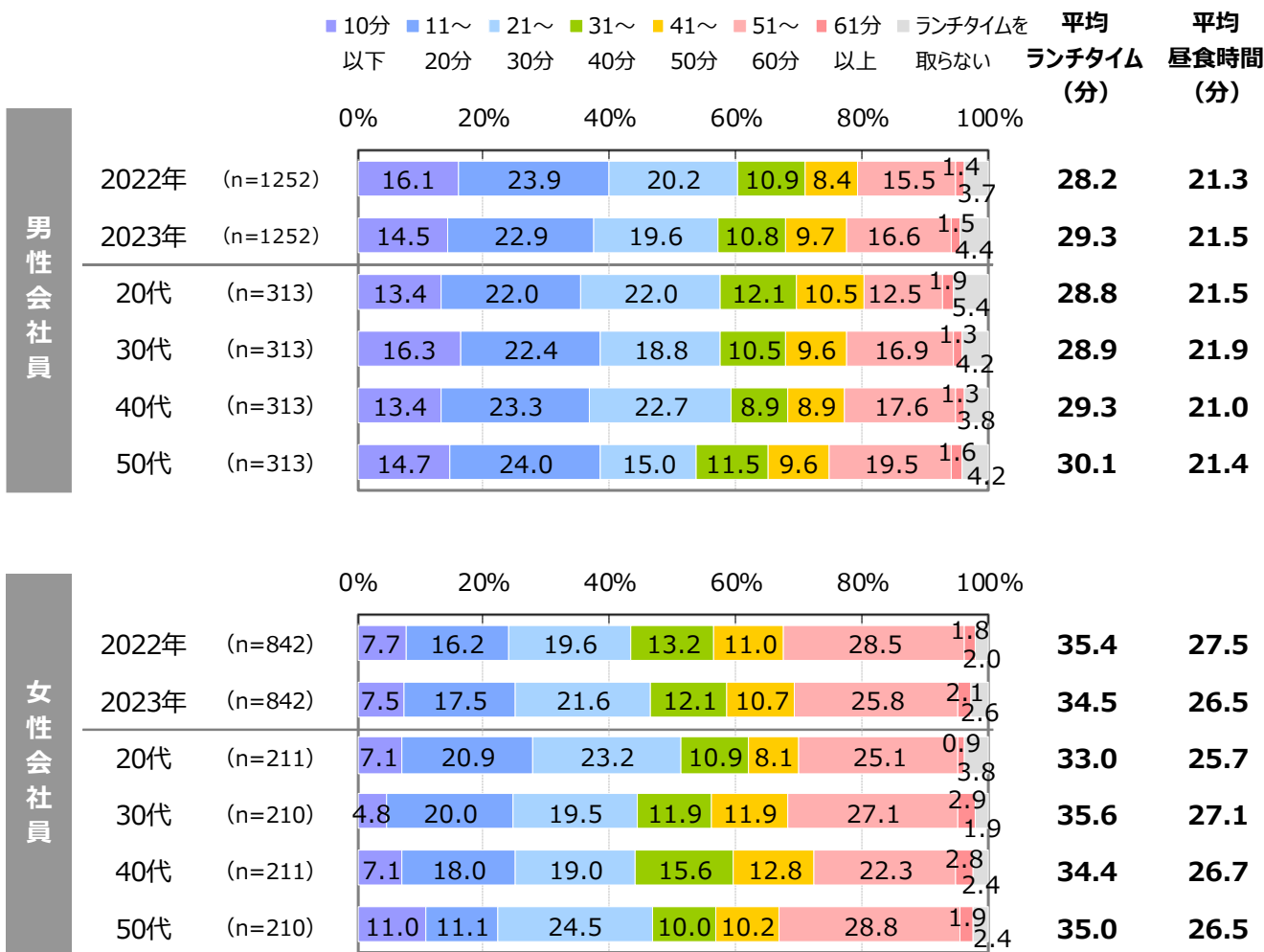
※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示

■ ランチタイムにかける時間

男性社員における、ランチタイム時間は平均29.3分。そのうち、昼食時間は平均21.5分となっております。なお、ランチタイム時間の回答は、「11～20分」が2割以上と比較的多いです。また、年代別にみると、50代では「51～60分」が他年代よりやや高い点が特徴です。

女性社員においては、「51～60分」が2割半ばと多く、ランチタイム時間は平均34.5分、昼食時間は平均26.5分と、男性社員よりやや長い傾向がみられます。

設問：ランチタイム(昼食を含む勤務日のお昼休憩時間)にかける時間は平均して、どのくらいですか。
 昼食(勤務日)にかける時間は平均して、どのくらいですか。



■ ランチタイムの過ごし方

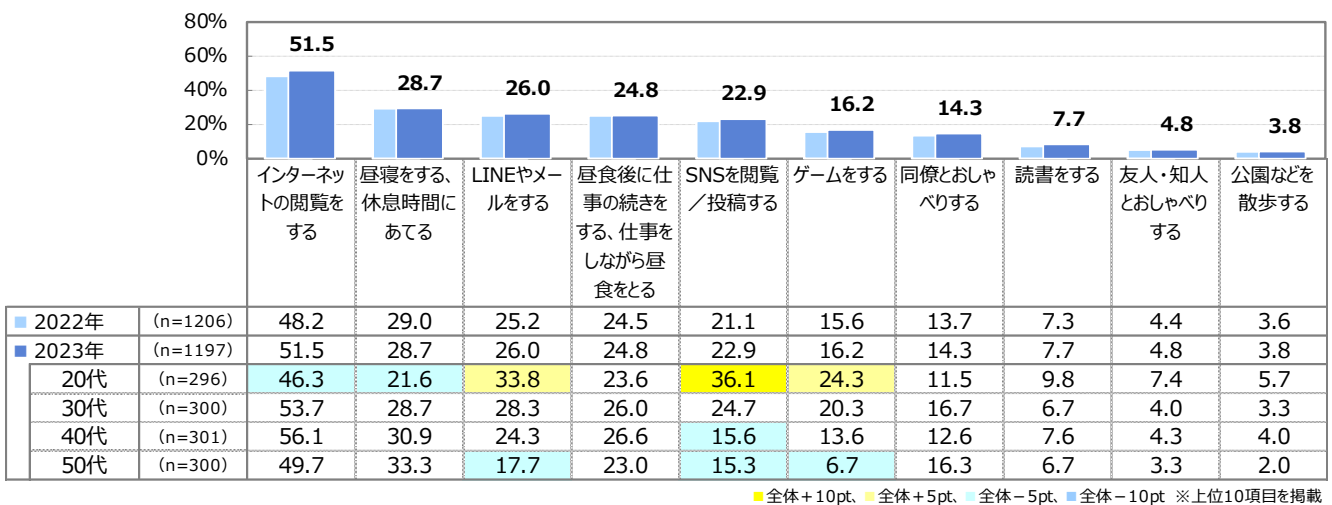
男性社員における、ランチタイムの過ごし方トップ3は、「インターネットの閲覧」51.5%、「昼寝や休息」28.7%、「LINEやメールをする」26.0%となっております。20代では「SNSを閲覧/投稿する」が3割半ばと高い点が特徴です。

女性社員においても、男性同様、「インターネットの閲覧」54.6%がトップとなっております。しかし、「LINEやメールをする」47.3%、「SNSを閲覧/投稿する」42.6%、「同僚とおしゃべりする」23.7%が続いており、男性会社員とやや異なる傾向にあることがわかります。昨年と比較すると「LINEやメールをする」は8pt増加しております。また、年代別では、30代以下で「SNSを閲覧/投稿する」が5割以上と高くなっております。

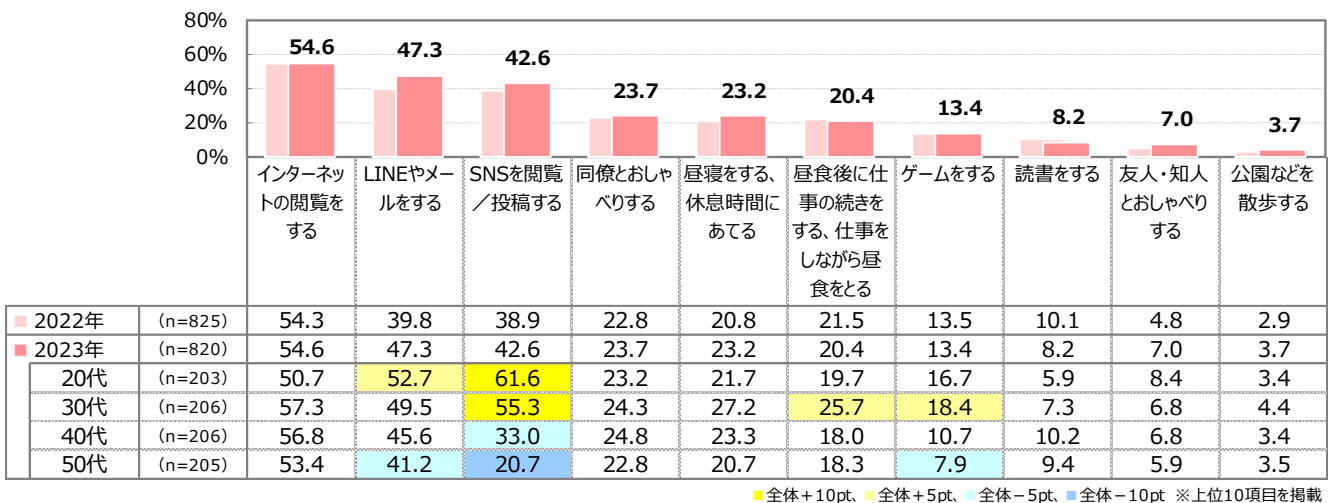
設問：あなたの「ランチタイムの過ごし方」として、あてはまるものを、全てお答えください。

※ランチタイム(お昼休憩)をとる方ベース

男性会社員



女性会社員



【3】 会社員の飲み事情

- ▶ 昨年と比べて飲酒している男性会社員の割合はほぼ同じで、仕事後の外、自宅含めた飲酒は69.5%となり、「お酒を飲まない人」は30.0%と約3人に1人は飲酒しない状況
- ▶ 男性会社員の1回の飲み代は5,770円、女性会社員の1回の飲み代は4,924円
- ▶ 1カ月の飲み回数は飲みに行く方、自宅で飲む方ともに昨年とほぼ同水準となっている

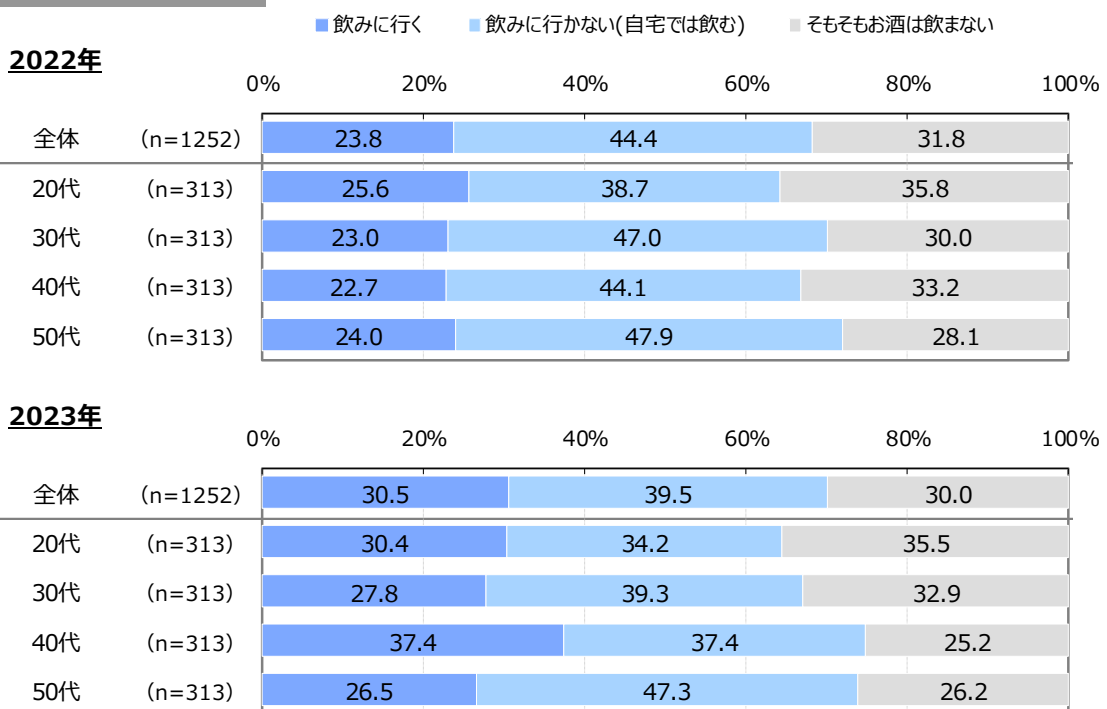
■ 仕事後の飲酒状況と1回あたりの飲み代

男性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が30.5%、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」が39.5%を占めており、飲酒している方は70.0%にのびります。なお、昨年と比較すると、「飲みに行く」は7pt増加となりました。

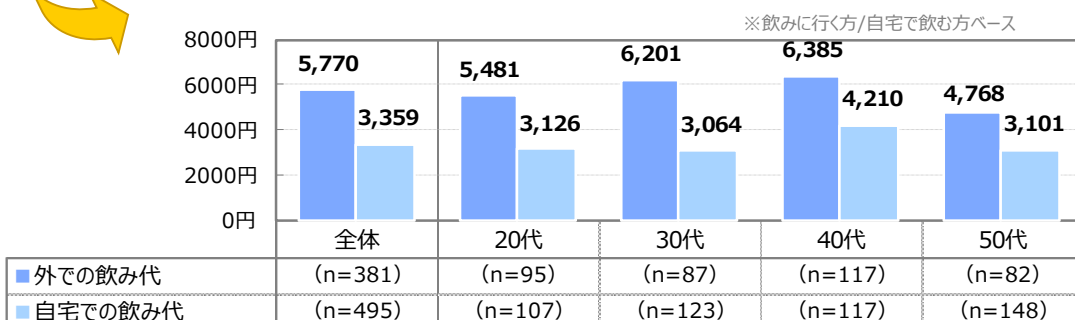
年代別では、40代で「飲みに行く」が最も高くなっており、外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代を比較すると、外での飲み代が平均5,770円に対し、自宅での飲み代が平均3,359円と、2,411円の開きが見られます。

設問：仕事が終わった後、一カ月に平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？

男性社員

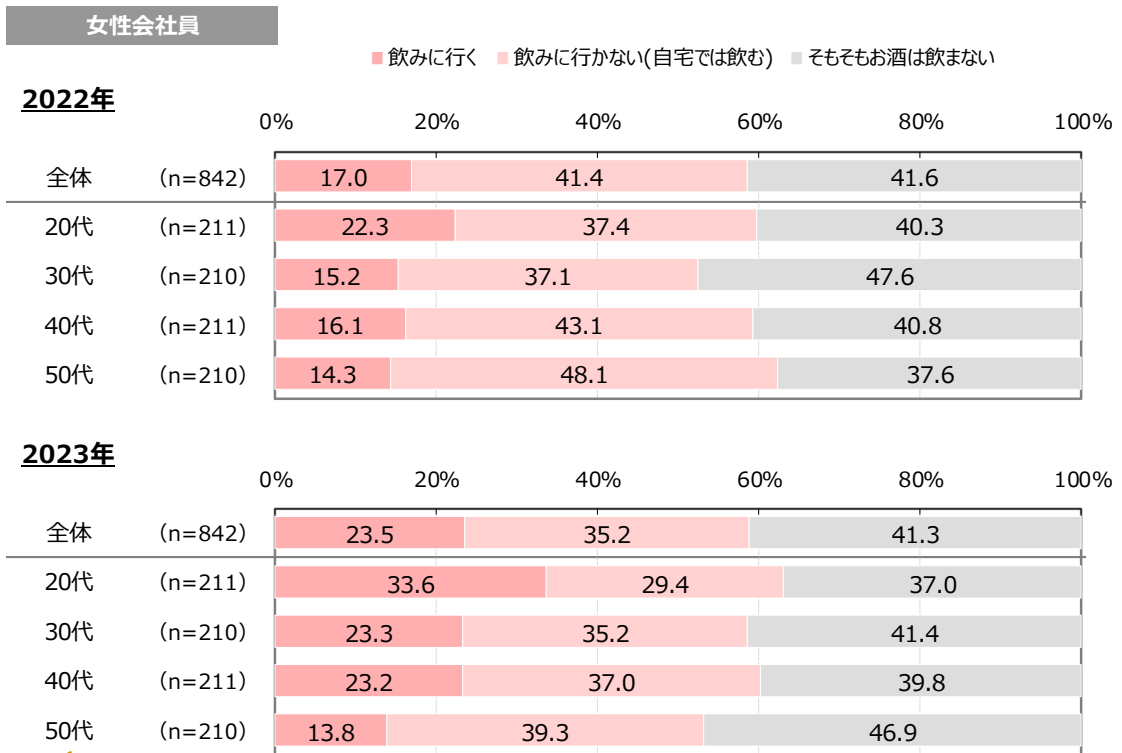


1回の平均飲み代は…？



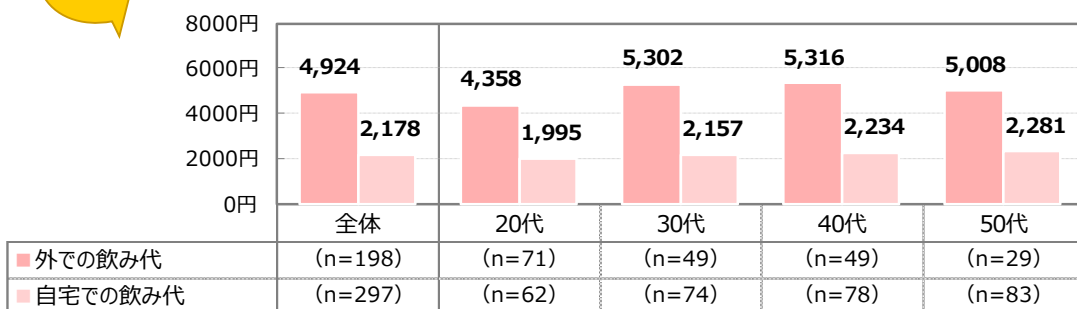
女性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が23.5%、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」は35.2%を占めており、飲酒している方は58.7%となっております。なお、昨年と比較すると、「飲みに行く」は7pt増加いたしました。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外での飲み代が平均4,924円に対し、自宅での飲み代が平均2,178円と、2,746円の開きがみられます。また、年代別では、20代で外での飲み代が低い点が特徴です。



1回の平均飲み代は・・・？

※飲みに行く方/自宅で飲む方ベース

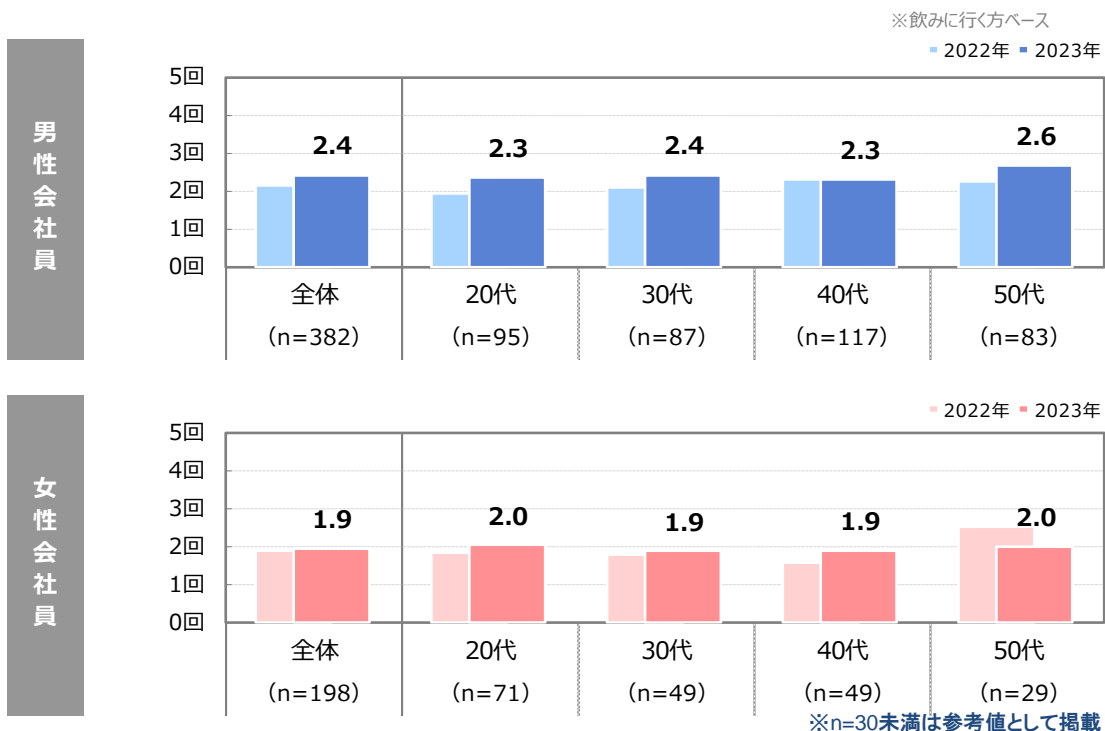


※n=30未満は参考値として掲載

■ 1カ月の飲み回数 ※飲みに行く方/自宅で飲む方ベース

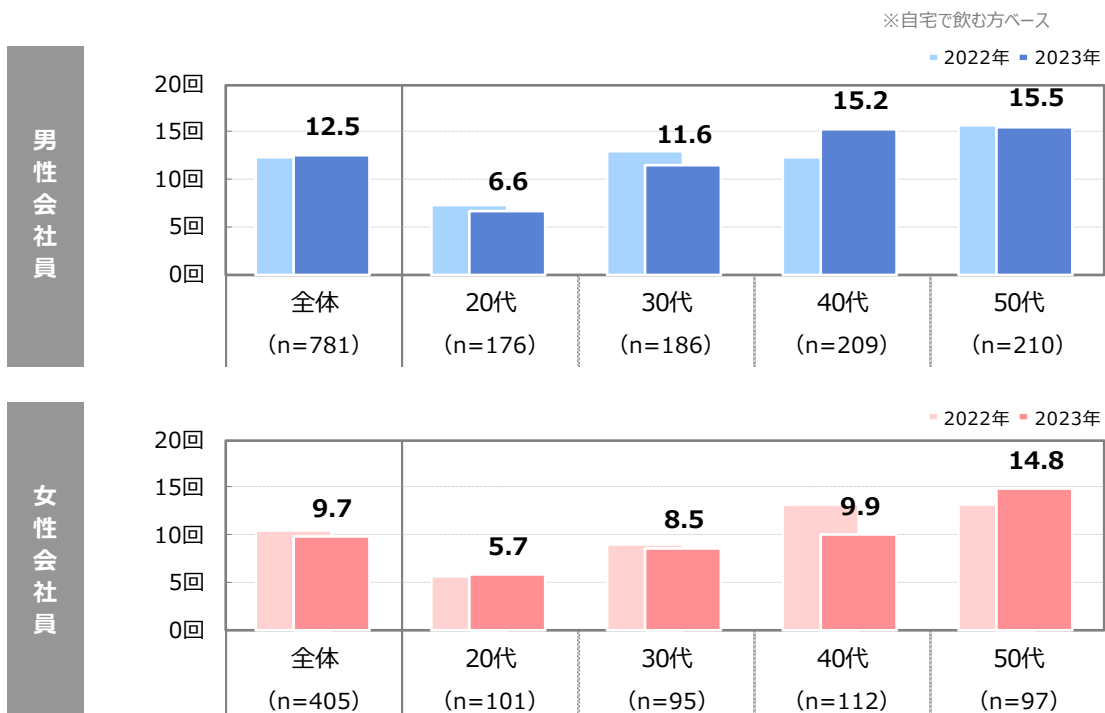
男性社員の1カ月の平均外飲み回数は2.4回、女性社員は1.9回と、昨年と比較して男性は増加、女性は同水準となっております。年代別にみると、男性社員は、唯一、40代で飲み回数が昨年同水準となっておりますが、その他の年代ではいずれも増加しております。

設問：仕事が終わった後、一カ月に平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？



1ヶ月の自宅での飲みの回数の平均は、男性社員が12.5回、女性社員が9.7回と、昨年と比較して男性は同水準、女性はやや減少となっております。年代別にみると、男性社員の40代では自宅で飲む回数が増加しているが、女性社員の40代では自宅で飲む回数が減少している点が特徴となります。

設問：1ヶ月あたり平均何回くらい自宅でお酒を飲みますか？

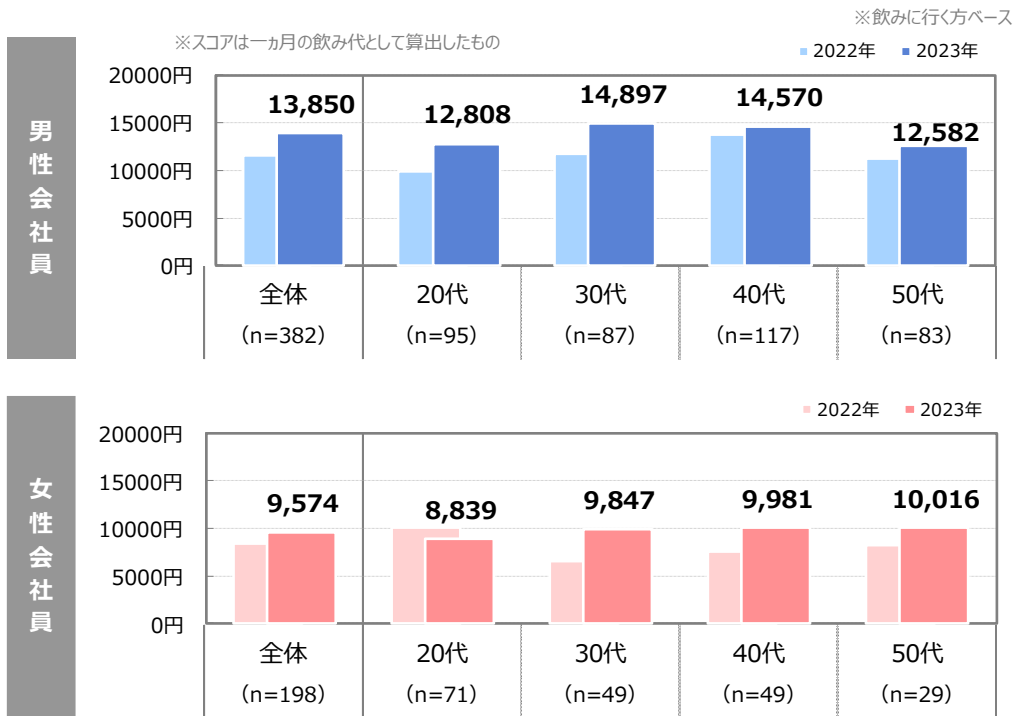


■ 1カ月の飲み代 ※飲みに行く方ベース

1回の飲み代と1カ月の飲み回数から算出した男性社員の1カ月の飲み代は、昨年より2,355円増加し、13,850円となりました。年代別にみると、どの年代でも増加しておりますが、中でも20代と30代は3,000円以上の大幅増加をしている点が特徴となっております。

女性社員は、男性社員より4,276円低い9,574円という結果になりました。年代別にみると、昨年より20代では減少しているものの、30代以上では増加している点が特徴的です。

設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？



※n=30未満は参考値として掲載

【4】 経済的なゆとり

- 経済的なゆとりについて、男女ともに「世帯年収」の高低にかかわらず「ゆとりあり」が減少し「苦しい」が増加した
- お小遣い面からみて男性会社員の「ゆとりがある層」は、20代と30代がやや多めと昨年より大きな変化はなく、個人年収は全体より57万円、世帯年収は100万円高い結果となる

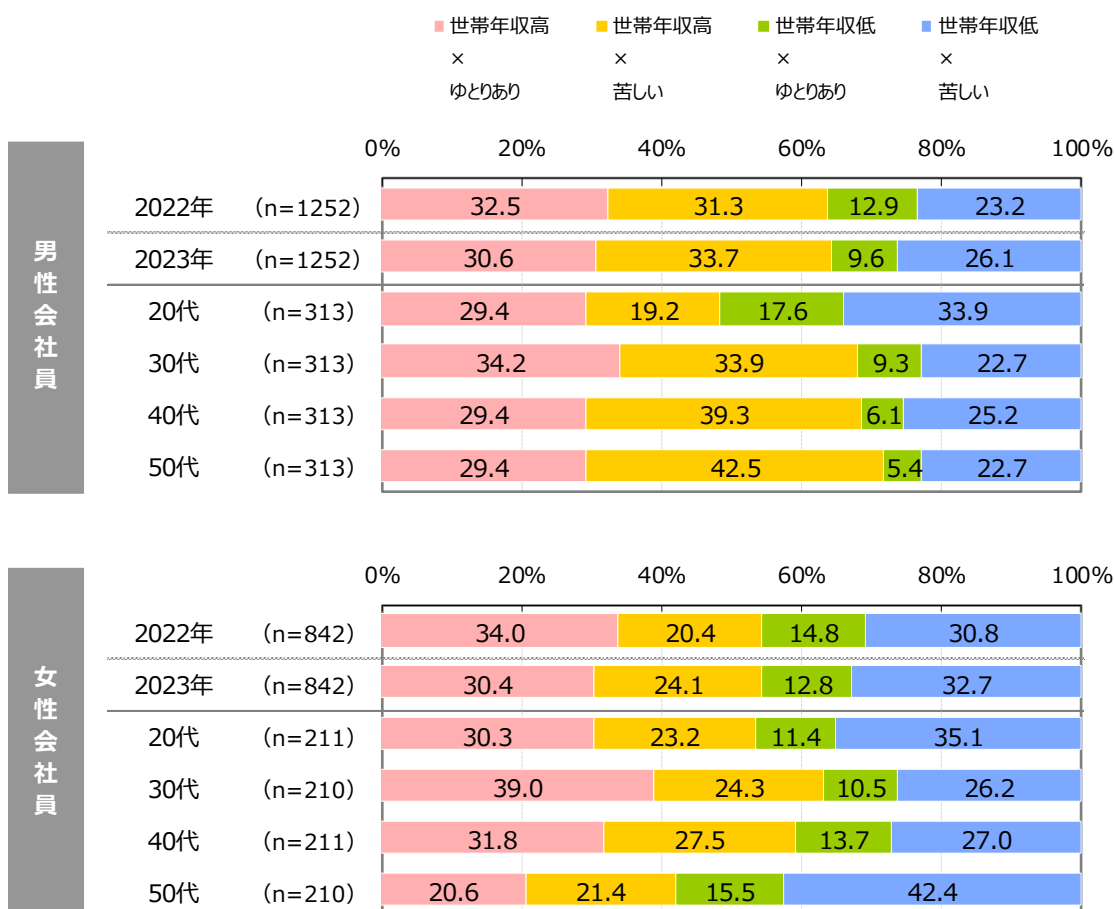
■ 経済的なゆとり

『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認します。『世帯年収』は、500万円以上を“高”、500万円未満を“低”と定義し、『日常生活のゆとり』は、「大いにゆとりがある」+「まあまあゆとりがある」を“ゆとりあり”、「大変苦しい」+「やや苦しい」を“苦しい”と定義します。それぞれを掛け合わせ、経済的なゆとりにおいて、4層のグループを作成しました。

男性会社員では、「世帯年収高×苦しい」が33.7%と最も多く、「世帯年収高×ゆとりあり」が30.6%、「世帯年収低×苦しい」が26.1%で続きます。昨年と比較して、トップが「世帯年収高×ゆとりあり」と「世帯年収高×苦しい」で入れ替わっております。また「世帯年収高×苦しい」がやや増加しております。また、年代別にみると、年代が上がるほど、「世帯年収高×苦しい」層の割合が高くなっている点が特徴的です。

女性会社員では、「世帯年収低×苦しい」が32.7%と最も多く、「世帯年収高×ゆとりあり」が30.4%と続きます。中でも50代の「世帯年収低×苦しい」層が4割強にのぼる点が特徴となっております。

設問：“おこづかい”面からみて、この一年間のあなたの日常生活はいかがですか？



■ ゆとりがある層／ない層のプロファイル比較

お小遣い面からみて、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」を、会社員全体と比較したものを以下に掲載します。ここから、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」がどのような方なのかを確認します。

男性会社員の「ゆとりがある層」は、20代、30代がやや多く、若年層寄りの傾向がみられます。また、全体と比較して、個人年収は57万円、世帯年収では100万円高い結果となり、収入自体の多さがわかります。一方、「ゆとりがない層」は、全体より40代、50代がやや多く、個人年収・世帯年収ともに、全体よりも低い結果でした。

女性会社員の「ゆとりがある層」は、30代がやや多く、また、個人年収、世帯年収については、男性会社員と同様に、ゆとりがある層で、ともに高い結果となっております。

	男性会社員 全体 (n=1252)	ゆとりがある層 (n=503)	ゆとりがない層 (n=749)
年齢			
年収	個人年収 516 万円 世帯年収 678 万円	個人年収 573 万円 世帯年収 778 万円	個人年収 478 万円 世帯年収 611 万円
家族構成			

	女性会社員 全体 (n=842)	ゆとりがある層 (n=364)	ゆとりがない層 (n=478)
年齢			
年収	個人年収 346 万円 世帯年収 620 万円	個人年収 411 万円 世帯年収 735 万円	個人年収 296 万円 世帯年収 532 万円
家族構成			

【5】 お小遣いの使いみち、やりくり術

- ▶ お小遣いの使いみちトップ3は、男性会社員は「昼食代」が41.1%、「携帯電話代」が27.4%、「嗜好品代」が22.7%。女性会社員は「昼食代」が34.9%、「携帯電話代」が34.7%、「身だしなみのための費用」が34.0%
- ▶ 男性会社員の78.0%、女性会社員の87.2%がお小遣い面で何らかのやりくりを実施しており、具体的なやりくり術は男性会社員は「昼食費を安くする」が、女性会社員は「水筒を持参」がトップ
- ▶ 男性会社員は13.5%、女性会社員は11.4%は副収入があり、男女で差がみられる項目として男性会社員は「株式投資」が、女性会社員は「アルバイト・副業」が上位という結果に

■ 必要不可欠な使いみちと必要額(月額)

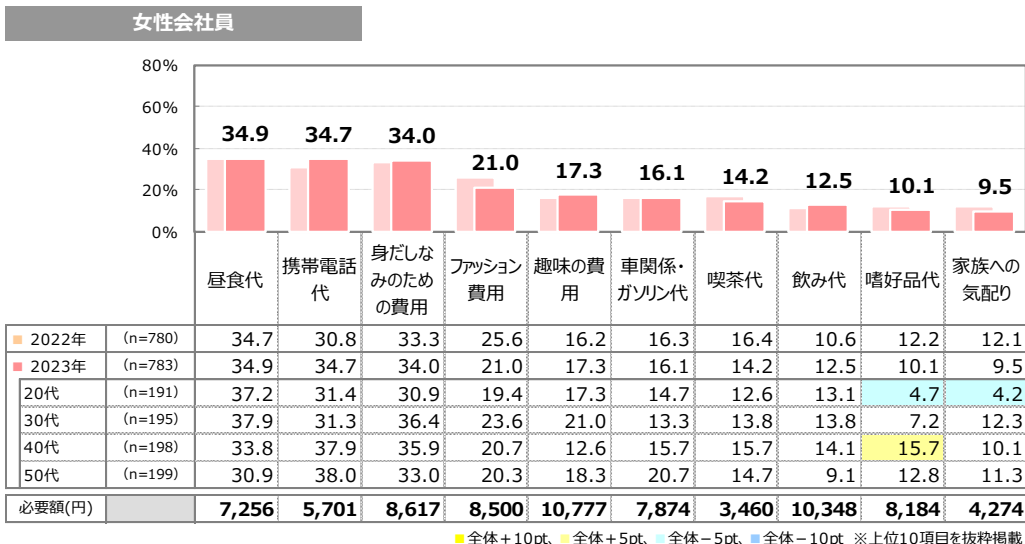
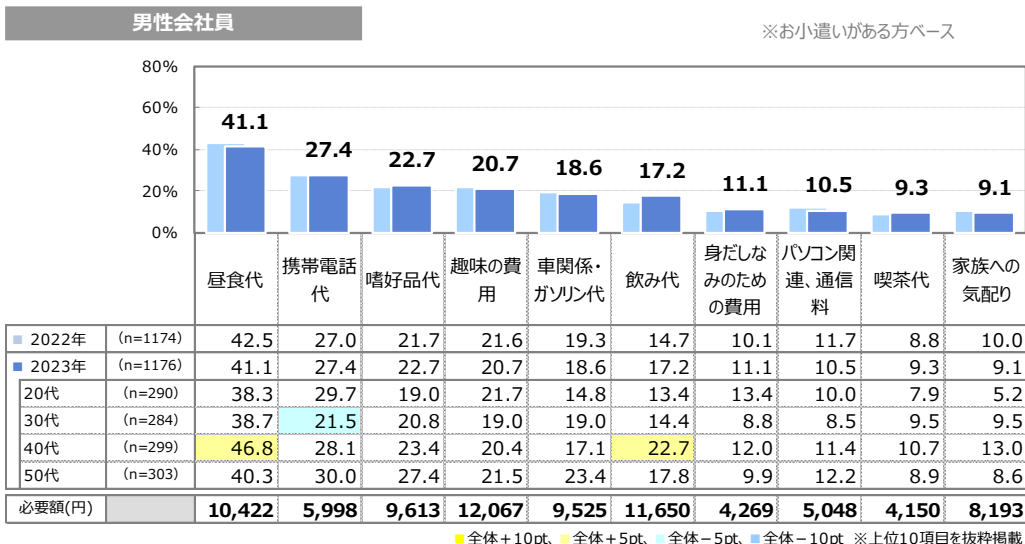
お小遣いの使いみちとして必要不可欠な項目を、上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「昼食代」が41.1%と突出しており、昨年同様トップとなりました。

「昼食代」の必要額は平均10,422円です。なお、必要額が最も高い項目は、必要不可欠な項目順位としては4番目に高い「趣味の費用」で12,067円となっております。

女性会社員は、「昼食代」が34.9%と最も高く、以下「携帯電話代」、「身だしなみのための費用」が続きます。必要額が最も高い項目は、男性会社員と同じく「趣味の費用」で10,777円という結果となりました。

設問：あなたの“おこづかい”の使いみちとして、必要不可欠なものは何ですか？
また、その項目の月々に必要な金額をお答えください。



■ 月々の出費

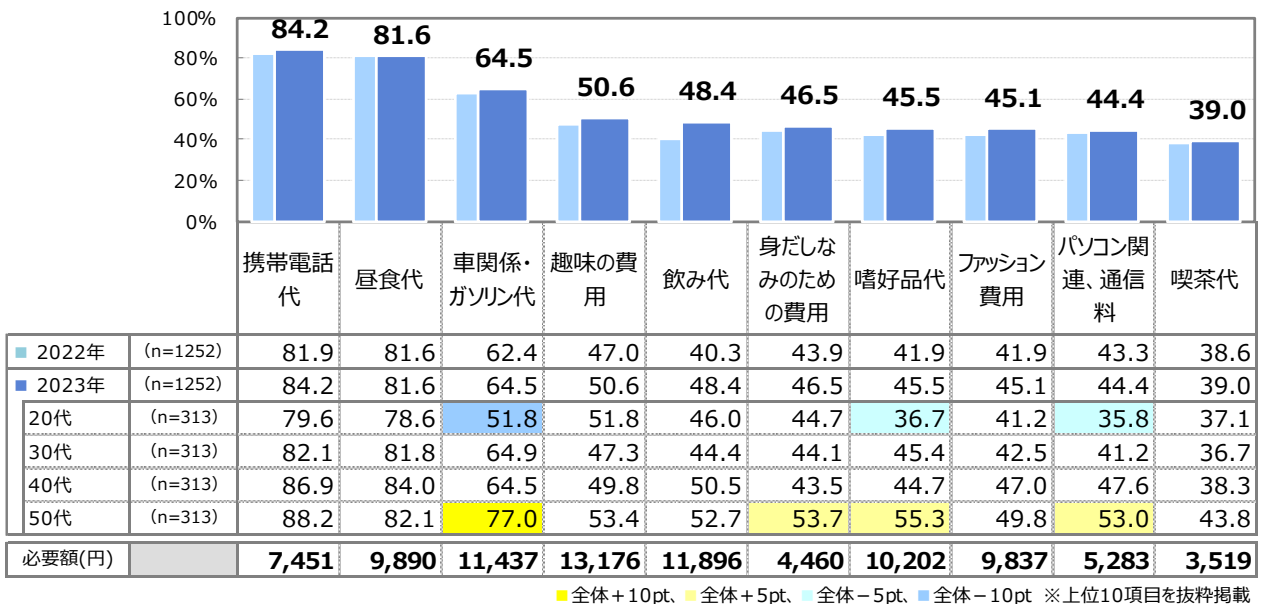
月々の出費として使用している項目の上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性社員では、「携帯電話代」が84.2%と最も高く、以下「昼食代」81.6%、「車関係・ガソリン代」64.5%が続きます。なお、必要額が最も高い項目は「趣味の費用」で13,176円となっております。

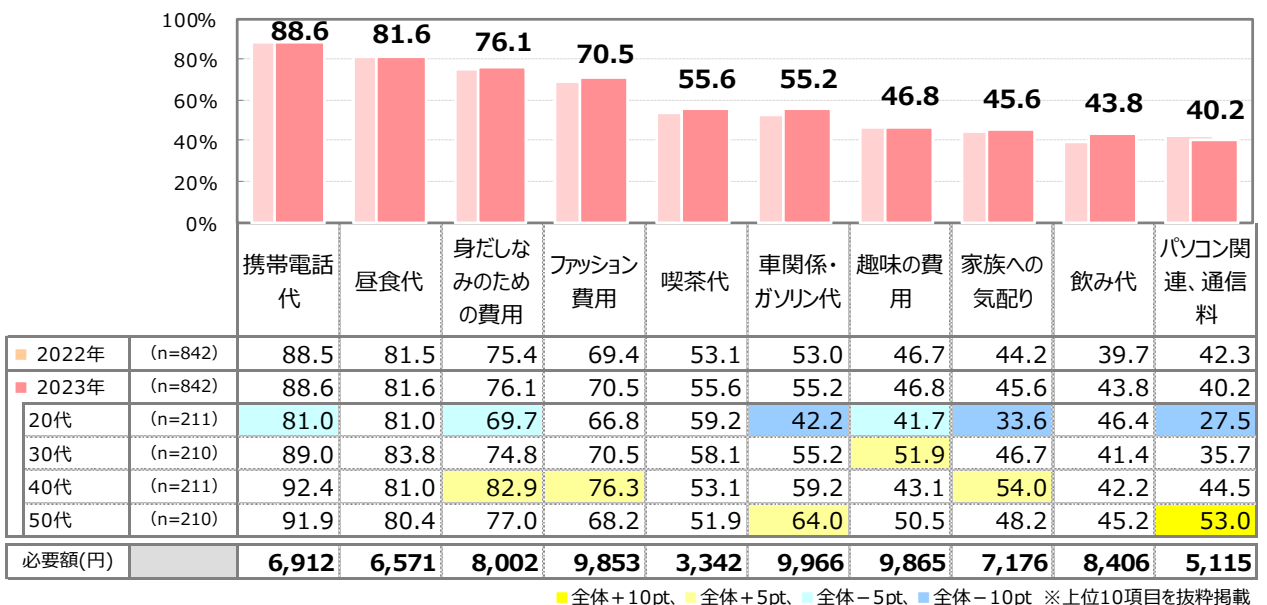
女性社員では、「携帯電話代」が88.6%と最も高く、以下「昼食代」81.6%、「身だしなみのための費用」76.1%、「ファッション費用」70.5%が続きます。男性社員と比較して、「身だしなみのための費用」、「ファッション費用」が上位に来ており、「携帯電話代」と「昼食代」以外のお金のかけ方に違いがみられます。

設問：あなたは、下記の項目に月々いくらかけていますか。

男性社員



女性社員



■ お小遣いのやりくりと節約術

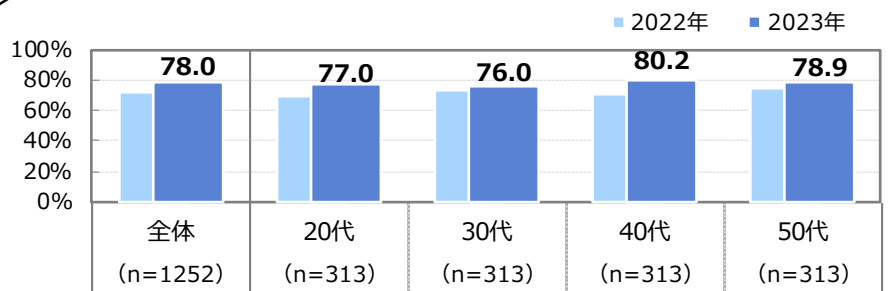
男性社員における、お小遣いのやりくり実施率は78.0%と、多くの方が、何かしらの節約策を実行していることがわかります。具体的なやりくり術には、「昼食費を安くする」、「外で飲む回数を減らす」、「水筒を持参する」などが上位に挙げられます。また、すべての年代に共通して「昼食費を安くする」が最も高くなっております。

女性社員におけるやりくり実施率は、男性社員よりも高く、87.2%の方が節約策を実行しております。具体的なやりくり術には、「水筒を持参する」、「弁当を持参する」、「昼食費を安くする」などが上位に挙げられます。また、男性社員と比較して、洋服・靴に関する項目が上位に挙がる点が特徴的です。

設問：あなたは、“おこづかい”面でみて、ここ最近、やりくりをしていることがありますか。

男性社員

<やりくり実施率>



1位 2位 3位 4位 5位

具体的なやりくり術

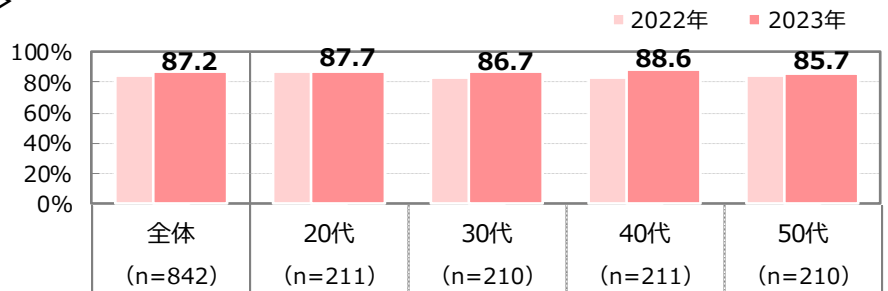
(%)

やりくり術	2022年	2023年
昼食費を安くするように努力している	35.9	35.1
外で飲む回数を減らしている	28.0	27.8
水筒を持参するようにしている	26.0	26.5
衝動買いをしないようにしている	24.4	27.2
弁当を持参するようにしている	23.8	20.4
少し遠くても歩くようにしている	22.0	19.5
タクシーなどに乗らないようにしている	19.0	18.8
ネット通販やバーゲンなどで価格が安いものを買うようにしている	17.4	21.4

※上位8項目を抜粋掲載

女性社員

<やりくり実施率>



1位 2位 3位 4位 5位

具体的なやりくり術

(%)

やりくり術	2022年	2023年
水筒を持参するようにしている	45.4	51.9
弁当を持参するようにしている	43.8	42.8
昼食費を安くするように努力している	42.1	38.6
衝動買いをしないようにしている	33.8	36.1
洋服・靴など、安いものを買うようにしている	30.8	29.9
少し遠くても歩くようにしている	27.1	26.6
ネット通販やバーゲンなどで価格が安いものを買うようにしている	25.8	23.6
タクシーなどに乗らないようにしている	25.4	22.6

※上位8項目を抜粋掲載

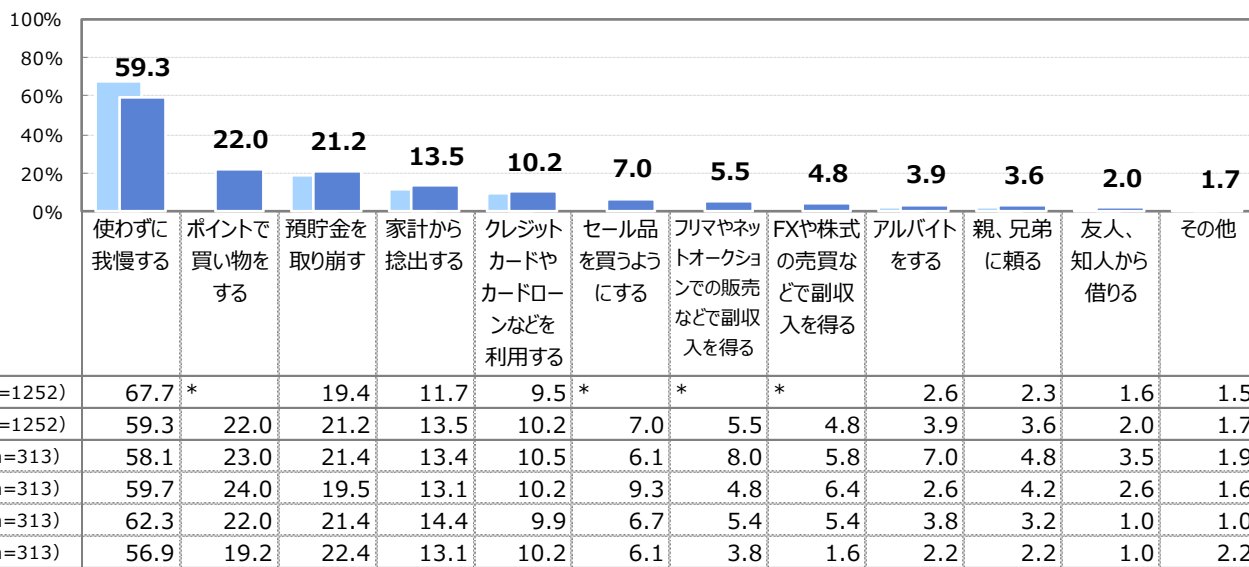
■ お小遣い不足時の対応

男性社員における、お小遣い不足時の対応では、「使わずに我慢する」が59.3%で突出しております。以降、「ポイントで買い物をする」、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続き、手持ちのお金で対応するケースが多くなっております。年代別にみても、どの年代でも「使わずに我慢する」が突出している点に変化はありません。

女性社員においても、男性社員と同様に、「使わずに我慢する」が58.4%と突出しております。以降、「ポイントで買い物をする」、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続く点も共通しております。また今回調査で追加した「ポイントで買い物をする」は3割となり、男性社員よりも多い結果となりました。

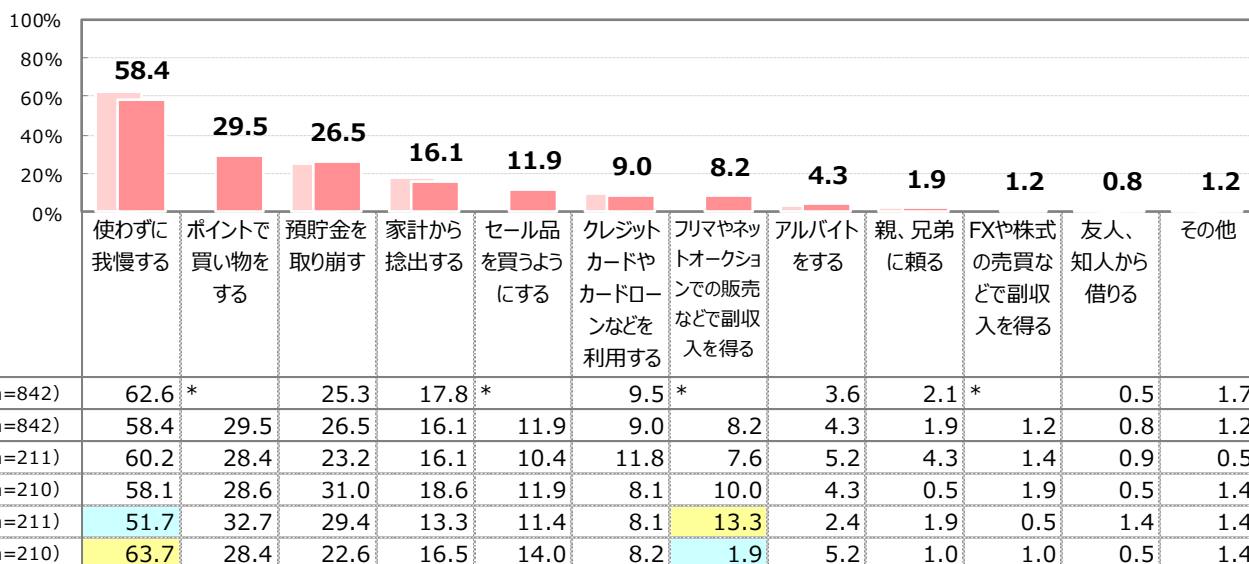
設問：“おこづかい”が足りなくなったとき、あなたはどのようにやりくりしていますか？

男性社員



■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

女性社員



*非聴取項目 ■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

■ 副収入事情

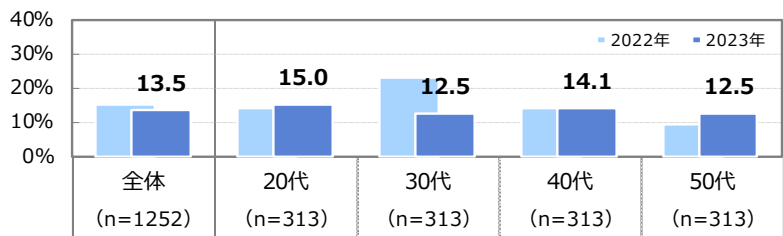
男性社員の13.5%は副収入があり、1ヵ月あたりに平均38,956円の収入額となっております。その収入源は、「ポイント・アンケートサイト」が43.8%と最も多く、「株式投資」、「アルバイト・副業」などが続きます。年代別にみると、副収入を得ている割合は、20代で最も高く、1割半ばとなっております。また、40代では副収入を得ている金額が最も高く、52,551円となっております。

女性社員は11.4%が副収入ありで、30代が最も副収入を得ている割合が高いです。1ヶ月あたりの副収入額は40代が最も高く、66,941円となっております。※女性社員20代/40代/50代はサンプル数僅少のため参考値扱いとなります。

設問：あなたは給与以外に副収入がありますか？ある方は月にどのくらいの収入を得ていますか？
どのような方法で副収入を得ていますか？

男性社員

<副収入を得ている割合>



副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

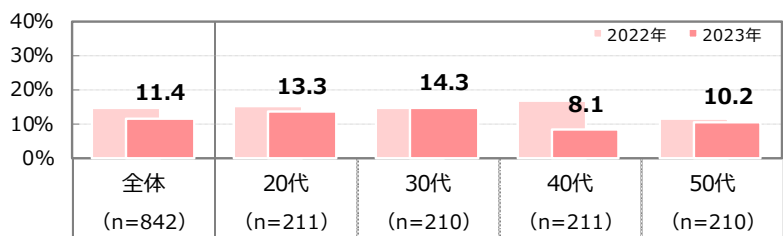
1ヶ月当たりの副収入額	(n=167)	(n=47)	(n=39)	(n=43)	(n=38)
	38,956円	18,277円	46,821円	52,551円	41,079円

収入源	割合 (%)				
	2022年	2023年	2022年	2023年	2022年
ポイントサイト、アンケートサイト	43.8	59.6	35.9	45.5	30.8
株式投資	35.5	29.8	41.0	54.5	15.4
アルバイト・副業	23.1	12.8	33.3	18.2	30.8
フリーマーケット	18.3	23.4	15.4	18.2	15.4
不動産投資（売買収益、賃貸収入など）	13.0	6.4	12.8	22.7	10.3
ネットオークション	13.0	14.9	17.9	4.5	15.4
FX等の外国為替取引	8.3	4.3	15.4	9.1	5.1
ギャンブル（パチンコ、競馬、競艇など）	7.1	8.5	10.3	4.5	5.1

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位8項目を抜粋

女性社員

<副収入を得ている割合>



副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

1ヶ月当たりの副収入額	(n=96)	(n=28)	(n=30)	(n=17)	(n=21)
	30,806円	19,893円	26,250円	66,941円	22,754円

収入源	割合 (%)				
	2022年	2023年	2022年	2023年	2022年
ポイントサイト、アンケートサイト	57.1	60.7	50.0	64.7	56.2
アルバイト・副業	45.0	39.3	46.7	41.2	53.2
フリーマーケット	20.8	28.6	26.7	11.8	9.4
ネットオークション	9.3	14.3	6.7	17.6	0.0
株式投資	8.5	7.1	6.7	11.8	10.2
FX等の外国為替取引	4.2	3.6	3.3	11.8	0.0
宝くじ	4.2	3.6	6.7	5.9	0.0
懸賞	4.2	3.6	3.3	5.9	4.7

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位8項目を抜粋

※インターネットリサーチを行っているため、「ポイントサイト、アンケートサイト」が高くなっています。

※n=30未満は参考値として掲載

【6】 会社員の給与管理状況

- 既婚男性会社員の6割弱が「お給料の“全額”を家庭に入れている」と回答。20代は46.5%と他世代に比べて低くはあるが、若い世代も全額を家庭にいれてる層が主流
- 女性会社員の既婚世帯は、男性会社員に比べて全額を家庭に入れる割合が低く32.2%
- 共働き世帯(子あり)の給与管理状況では、男性会社員では54.0%が「配偶者が管理し、お小遣いを渡す」となり、女性会社員はその割合が1割強と自分で給与管理する割合が高い

■ 給与管理状況

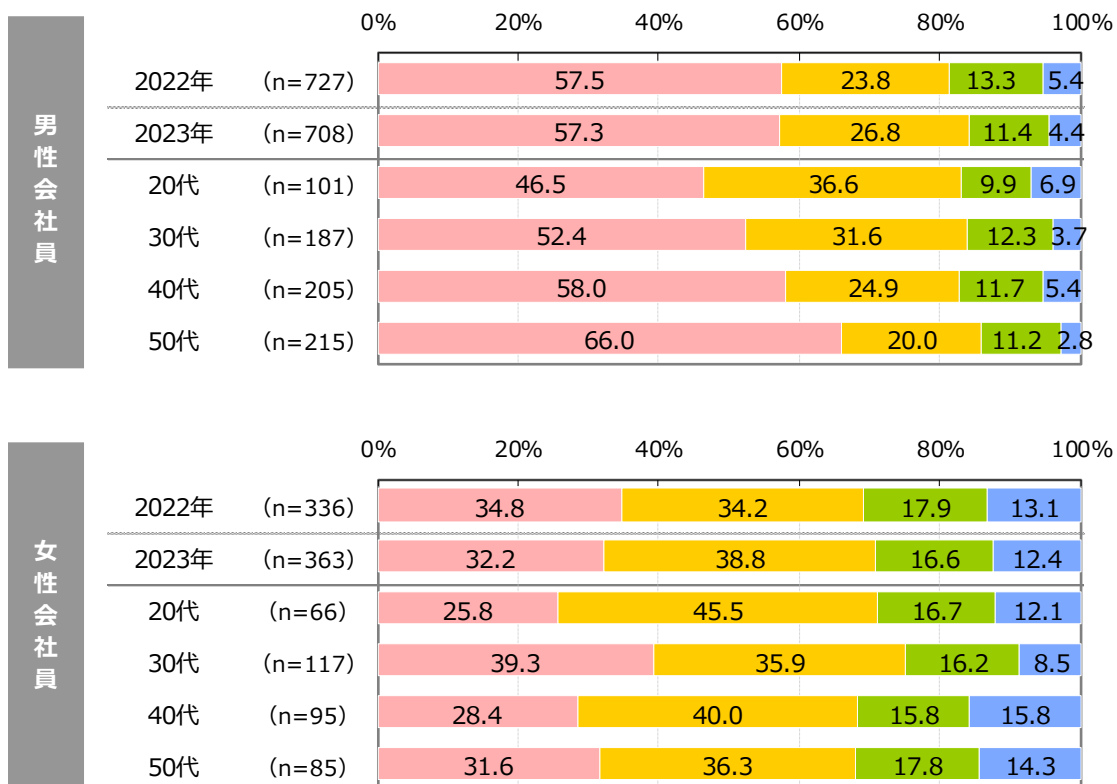
男性会社員の既婚世帯では、57.3%が「お給料の“全額”を家庭に入れている」という結果で、昨年と同様、6割近くがお小遣い制であることが分かります。年代別にみると、若年層ほど「お給料の“全額”を家庭に入れている」割合が低く、20代で最も低くなっている点が特徴です。

女性会社員の既婚世帯では、「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」が38.8%で最も高く、男性会社員と比べて全額を家庭に入れている割合は低くなっております。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

※既婚者ベース

- お給料の“全額”を家庭に入れている
- お給料の中から“一定額”を家庭に入れている
- お給料の中から“一定額”を手元に残し、残りを家庭に入れている
- お給料は全て自分の自由に使っている(家庭に入れていない)



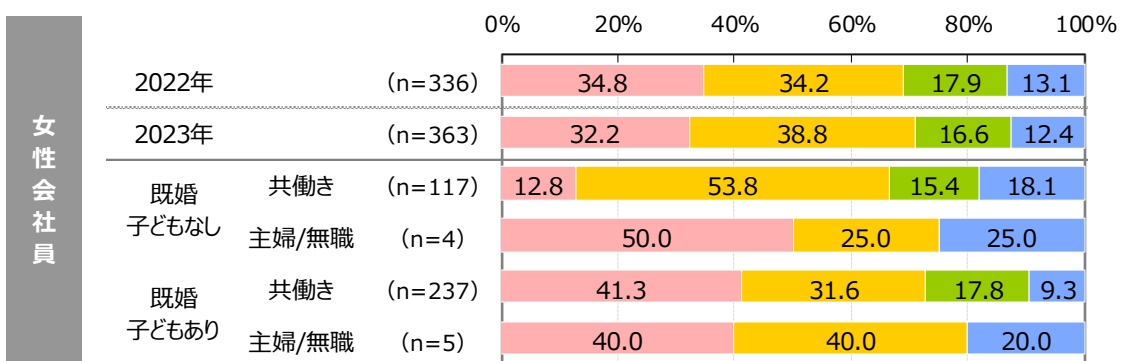
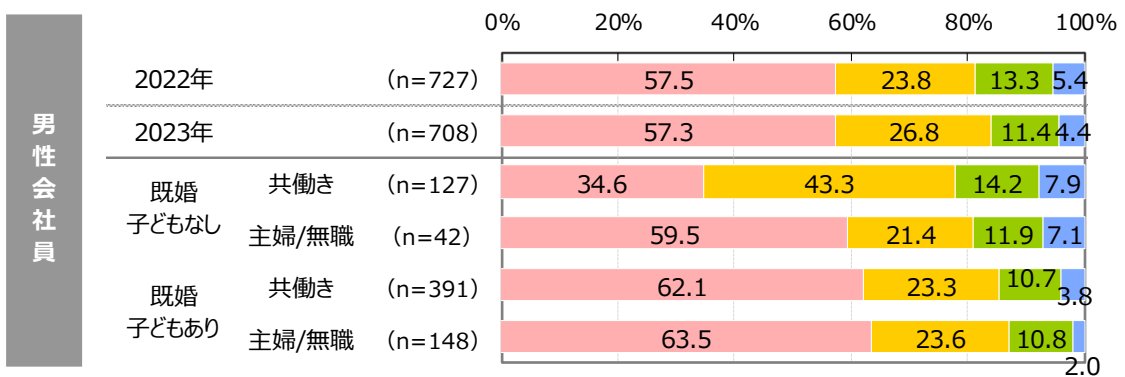
男性社員の給与管理状況をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)は、「お給料は“全額”を家庭に入れている」が34.6%にとどまり、全額を家庭に入れる方は全体よりも23pt低くなっております。

女性社員でも、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)は、「お給料は“全額”を家庭に入れている」が12.8%にとどまり、全額を家庭に入れる方は全体よりも19pt低くなっております。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

※既婚者ベース

- お給料の“全額”を家庭に入れている
- お給料の中から“一定額”を家庭に入れている
- お給料の中から“一定額”を手元に残し、残りを家庭に入れている
- お給料は全て自分の自由に使っている(家庭に入れていない)



※n=30未満は参考値として掲載

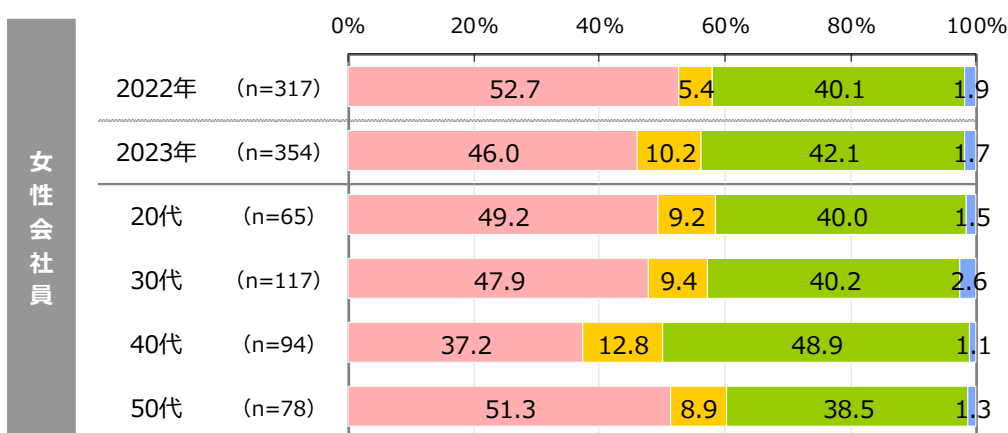
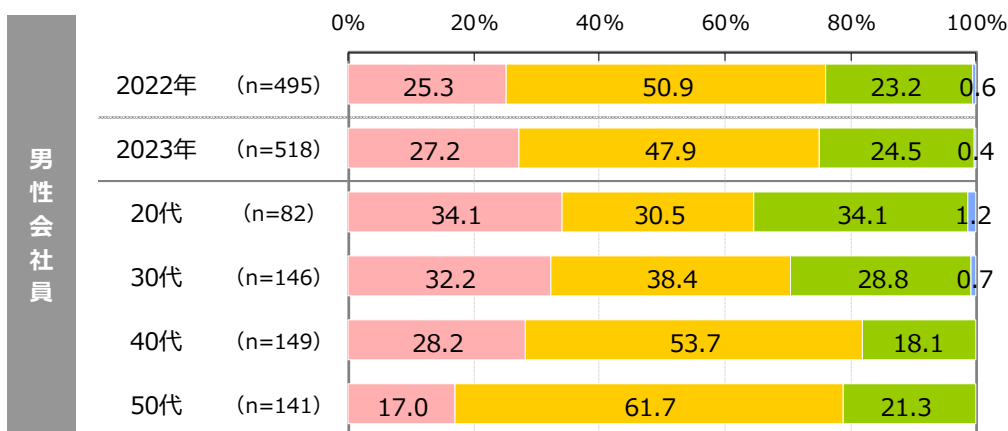
共働き世帯の給与管理状況をみると、男性会社員では47.9%が「配偶者(パートナー)が管理し、あなたに生活費やお小遣いを渡す」という結果となりました。また、「あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す」「配偶者(パートナー)とは別々で管理している」がそれぞれ2割台となっております。年代別にみると、若年層ほど「あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す」割合が高くなる傾向となっており、20代と30代では3割を超えている点の特徴です。また、20代では「配偶者(パートナー)とは別々で管理している」も3割を超えています。

女性会社員では、「あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す」が46.0%となりました。次いで、「配偶者(パートナー)とは別々で管理している」が42.1%となります。男性会社員と比べて、自身、もしくは別々で管理する割合が高くなっております。

設問：あなたと配偶者(パートナー)のお給料は、どのように管理していますか。

※既婚共働きベース

- あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す
- 配偶者(パートナー)が管理し、あなたに生活費やお小遣いとして渡す
- 配偶者(パートナー)とは別々で管理している
- その他



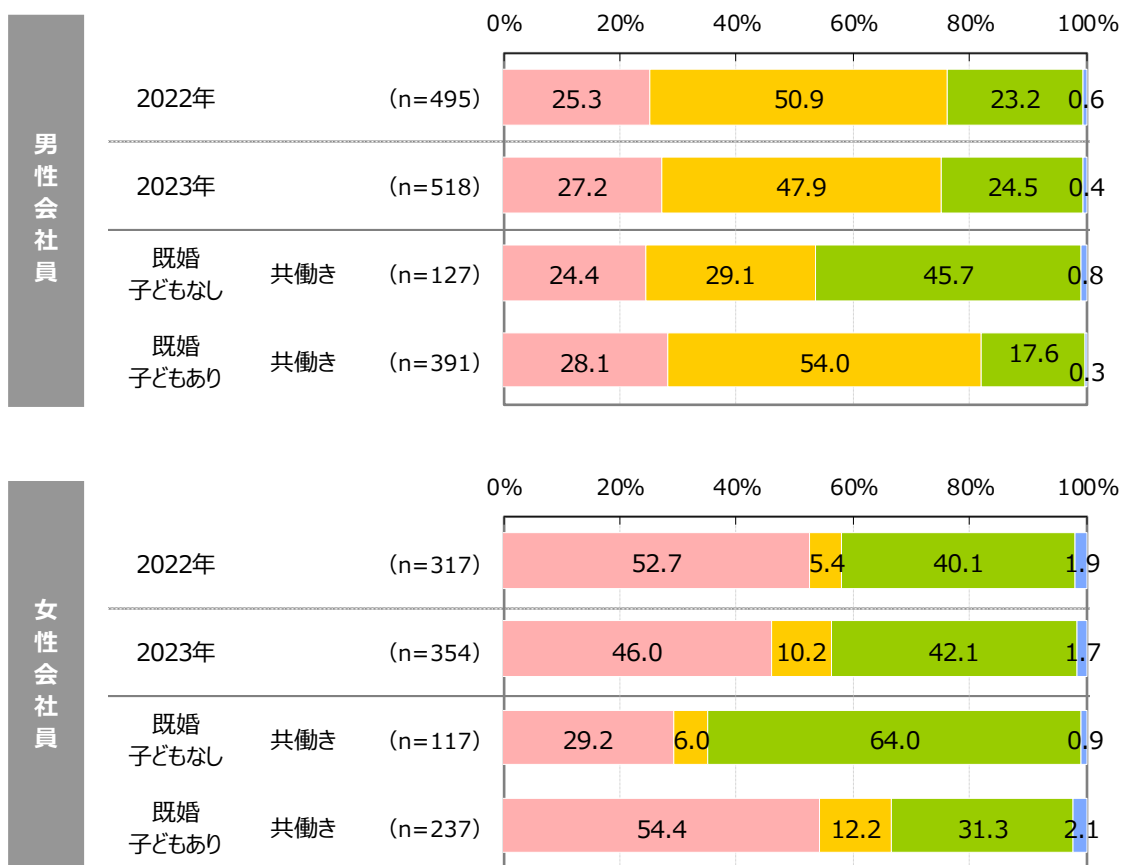
共働き世帯の給与管理状況をライフステージ別にみると、男性会社員の子どもなし世帯では、「配偶者(パートナー)とは別々に管理している」が45.7%と最も高い割合を占めます。一方、子どもあり世帯では、「配偶者(パートナー)が管理し、あなたに生活費やお小遣いとして渡す」が54.0%と最も高い割合を占める点が特徴です。

女性会社員では、子どもあり世帯で「あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す」が54.4%と半数以上を占める点が特徴です。子どもができることにより、別財布から、女性が管理する同じ財布へ移行する様子が窺えます。

設問：あなたと配偶者(パートナー)のお給料は、どのように管理していますか。

※既婚共働きベース

- あなたが管理し、配偶者(パートナー)に生活費やお小遣いとして渡す
- 配偶者(パートナー)が管理し、あなたに生活費やお小遣いとして渡す
- 配偶者(パートナー)とは別々に管理している
- その他



【7】 支払い手段

- ▶ 男性会社員の昼食代の支払い手段としては、「現金」がトップで71.7%、次いで「QRコード決済」が38.8%、「クレジットカード」が38.1%と続く
- ▶ 女性会社員も同様の順番で、「現金」がトップで68.2%、次いで「QRコード決済」が44.5%、「クレジットカード」36.1%と続く

■ 昼食代・飲み代の支払い手段

男性会社員の昼食代の支払い方法は、「現金」が71.7%で最も高く、「QRコード決済」38.8%、「クレジットカード」38.1%が続きます。「QRコード決済」については、昨年から5ptの増加となっております。また、年代別でみると、「クレジットカード」は30代以下が4割以上と高い点が特徴となっております。

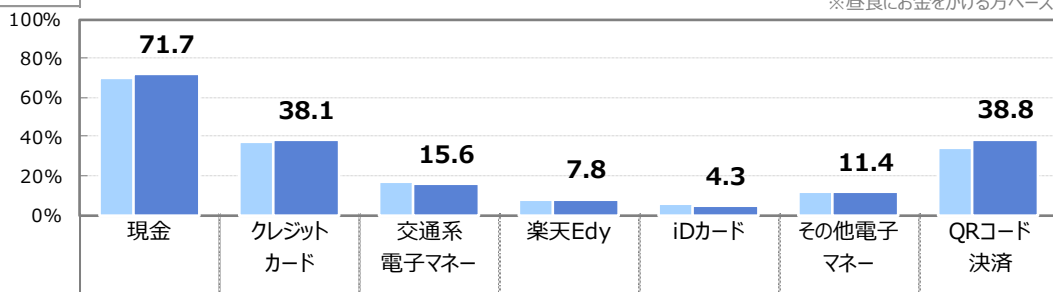
また、飲み代の支払い方法も昼食代と同様に、「現金」が81.2%と最も高く、「クレジットカード」60.2%、「QRコード決済」34.8%が続きます。飲み代に関して「クレジットカード」と「QRコード決済」は、昨年から2ptの増加となっております。また、昼食代と比較して、「クレジットカード」が22pt高い点が特徴的です。

設問：以下の項目について、あなたの支払手段としてあてはまるものをすべてお選びください。

男性会社員

昼食代

※昼食にお金をかける方ベース

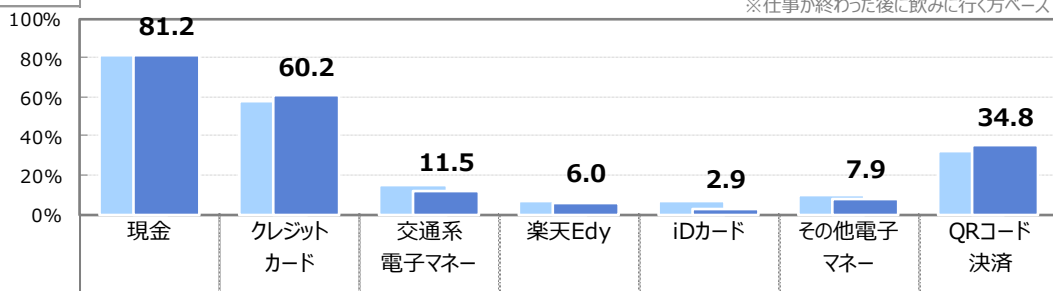


年	人数 (n)	現金	クレジットカード	交通系電子マネー	楽天Edy	iDカード	その他電子マネー	QRコード決済
2022年	(n=952)	70.3	37.3	16.4	8.1	6.0	12.2	34.1
2023年	(n=975)	71.7	38.1	15.6	7.8	4.3	11.4	38.8
20代	(n=238)	70.6	41.2	16.8	6.3	3.4	7.6	34.9
30代	(n=232)	69.0	41.8	12.9	11.6	5.6	12.1	40.9
40代	(n=257)	71.6	34.2	16.3	7.0	5.8	12.5	45.5
50代	(n=248)	75.4	35.5	16.1	6.5	2.4	13.3	33.5

■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

飲み代

※仕事が終わった後に飲みに行く方ベース



年	人数 (n)	現金	クレジットカード	交通系電子マネー	楽天Edy	iDカード	その他電子マネー	QRコード決済
2022年	(n=298)	81.2	58.1	14.8	6.4	7.0	10.1	32.6
2023年	(n=382)	81.2	60.2	11.5	6.0	2.9	7.9	34.8
20代	(n=95)	81.1	62.1	10.5	5.3	3.2	3.2	35.8
30代	(n=87)	78.2	71.3	12.6	12.6	3.4	10.3	40.2
40代	(n=117)	79.5	56.4	14.5	3.4	3.4	8.5	33.3
50代	(n=83)	86.7	51.8	7.2	3.6	1.2	9.6	30.1

■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

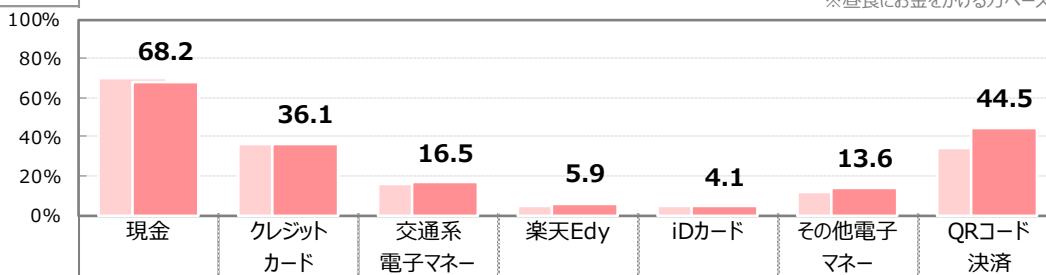
女性会社員の昼食代の支払い方法は、「現金」が68.2%で最も高く、「QRコード決済」44.5%、「クレジットカード」36.1%が続きます。「QRコード決済」については、昨年から10ptの増加となっております。

また、飲み代の支払い方法は、「現金」が83.8%で最も高く、「クレジットカード」58.1%、「QRコード決済」44.9%が続きます。昨年と比較して、「QRコード決済」が14pt増加している点が特徴となっております。

女性会社員

昼食代

※昼食にお金をかける方ベース

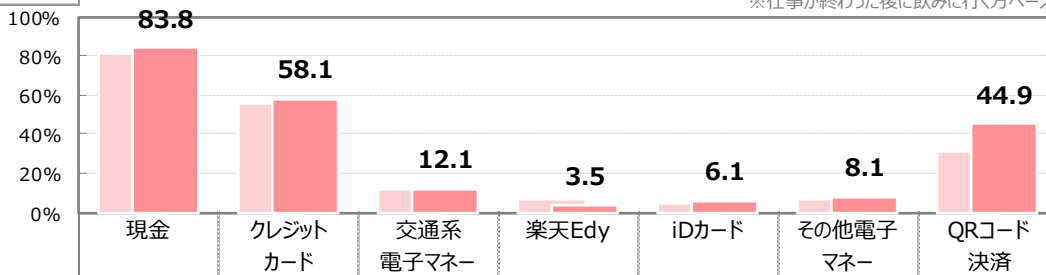


年次	人数 (n)	現金	クレジットカード	交通系電子マネー	楽天Edy	iDカード	その他電子マネー	QRコード決済
2022年	(n=621)	69.9	36.2	15.6	4.8	4.7	11.8	34.3
2023年	(n=627)	68.2	36.1	16.5	5.9	4.1	13.6	44.5
20代	(n=159)	65.4	37.7	18.9	3.8	3.8	7.5	45.9
30代	(n=158)	69.6	36.1	15.8	7.0	3.2	11.4	49.4
40代	(n=160)	70.6	36.9	20.0	6.3	6.3	19.4	53.1
50代	(n=150)	67.1	33.7	10.8	6.8	3.3	16.1	28.6

■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

飲み代

※仕事が終わった後に飲みに行く方ベース



年次	人数 (n)	現金	クレジットカード	交通系電子マネー	楽天Edy	iDカード	その他電子マネー	QRコード決済
2022年	(n=143)	81.1	55.2	11.9	6.3	4.2	7.0	30.8
2023年	(n=198)	83.8	58.1	12.1	3.5	6.1	8.1	44.9
20代	(n=71)	83.1	54.9	14.1	2.8	4.2	1.4	43.7
30代	(n=49)	87.8	59.2	8.2	2.0	4.1	10.2	49.0
40代	(n=49)	81.6	59.2	12.2	6.1	10.2	10.2	49.0
50代	(n=29)	82.8	62.1	13.8	3.4	6.9	17.2	34.5

■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

※n=30未満は参考値として掲載

【8】 投資状況

- ▶ 男性会社員は、現在投資しているものとして「投資信託」が32.9%とトップ、次いで「株式投資」30.5%、「暗号資産」11.7%、「外貨預金」10.6%と続く
- ▶ 女性会社員では、「投資信託」が30.7%で最も高く、「株式投資」16.7%と続く
- ▶ 検討中の投資としては、20代がどの投資の種類においても高めの傾向

■ 投資状況

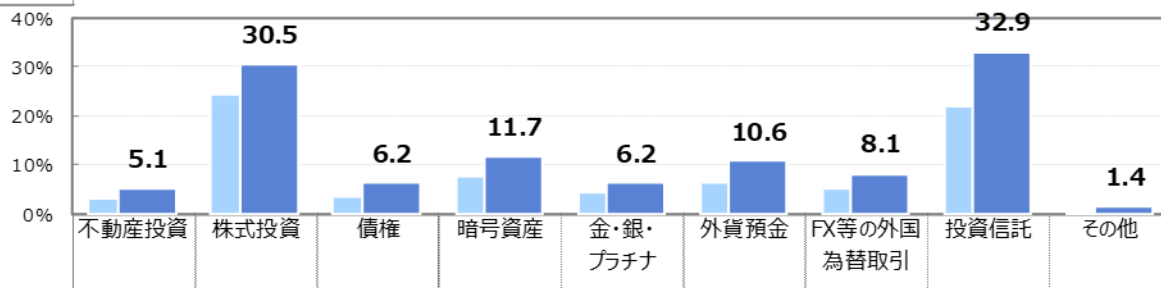
男性会社員の投資状況は、現在、投資しているものを見ると、「投資信託」が32.9%で最も高く、「株式投資」30.5%、「暗号資産」11.7%、「外貨預金」10.6%と続きます。その他のものはいずれも1割未満にとどまります。昨年と比較して「投資信託」は11pt、「株式投資」は6pt増加しました。

また、検討中のものについては、大差がなく、「株式投資」「投資信託」が1割半ばとなっております。年代別では、20代で一般的にスコアが高い点が特徴となっております。

設問：以下の項目についての、あなたの現在の投資状況について当てはまるものをお答えください。

男性会社員

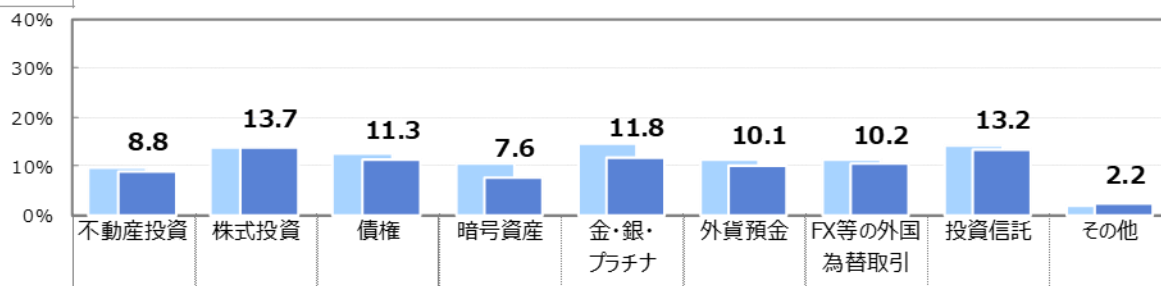
現在、投資をしている



■ 2022年	(n=1,252)	3.0	24.4	3.6	7.6	4.2	6.3	5.2	21.8	0.2
■ 2023年	(n=1,252)	5.1	30.5	6.2	11.7	6.2	10.6	8.1	32.9	1.4
20代	(n=313)	7.7	25.9	8.3	12.5	8.0	10.5	10.2	35.5	2.9
30代	(n=313)	5.1	30.7	6.1	16.3	6.7	13.1	9.9	37.1	1.3
40代	(n=313)	4.8	33.2	5.8	11.2	5.1	9.9	6.4	30.4	1.3
50代	(n=313)	2.9	32.3	4.5	6.7	5.1	8.9	6.1	28.8	0.0

■全体+10pt ■全体+5pt ■全体-5pt ■全体-10pt

検討中



■ 2022年	(n=1,252)	9.7	13.5	12.3	10.3	14.4	11.3	11.0	14.1	2.0
■ 2023年	(n=1,252)	8.8	13.7	11.3	7.6	11.8	10.1	10.2	13.2	2.2
20代	(n=313)	12.8	14.1	13.7	10.9	13.7	10.9	11.8	14.4	4.2
30代	(n=313)	7.0	13.4	11.8	7.0	12.5	9.9	9.6	13.1	1.0
40代	(n=313)	9.9	17.3	11.2	8.9	12.5	11.8	12.8	15.3	2.2
50代	(n=313)	5.4	9.9	8.3	3.5	8.6	7.7	6.7	9.9	1.3

■全体+10pt ■全体+5pt ■全体-5pt ■全体-10pt

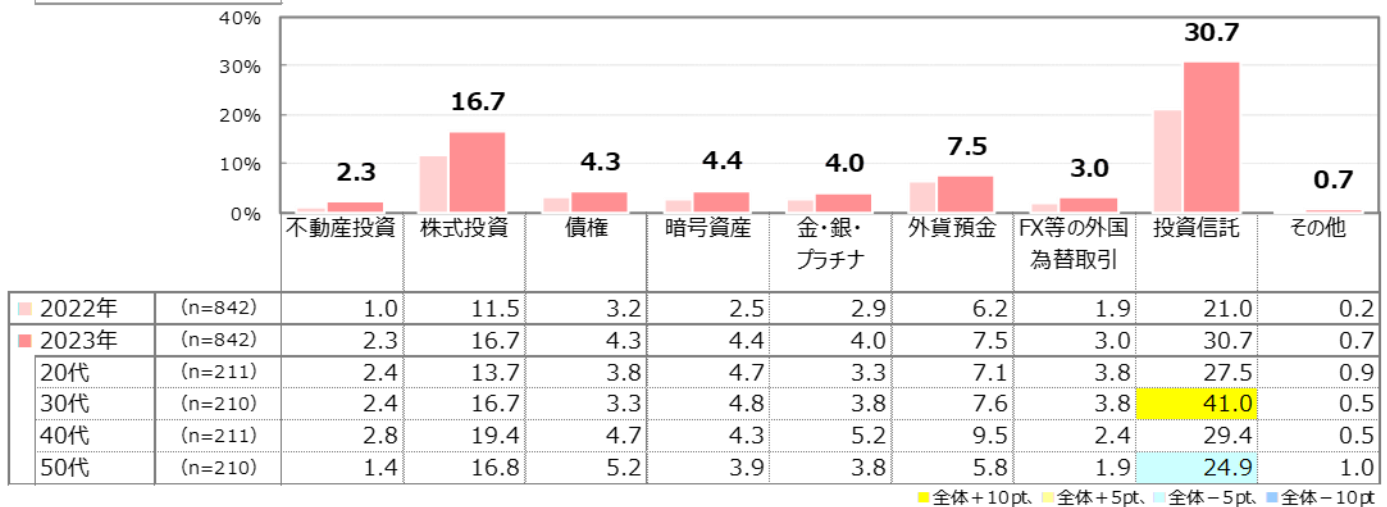
女性会社員の投資状況は、現在、投資しているものを見ると、「投資信託」が30.7%で最も高く、「株式投資」16.7%が続きます。男性社員で2番目に多い「株式投資」は男性社員より14pt下回ります。年代別でみると、30代の「投資信託」は4割以上と高い点が特徴となっております。

また、検討中のものについては、現在、投資しているものと同様、「投資信託」が12.1%で最も高く、「株式投資」10.2%が続きます。但し昨年調査と比較すると、全般的にスコアがやや低下している傾向がみられます。

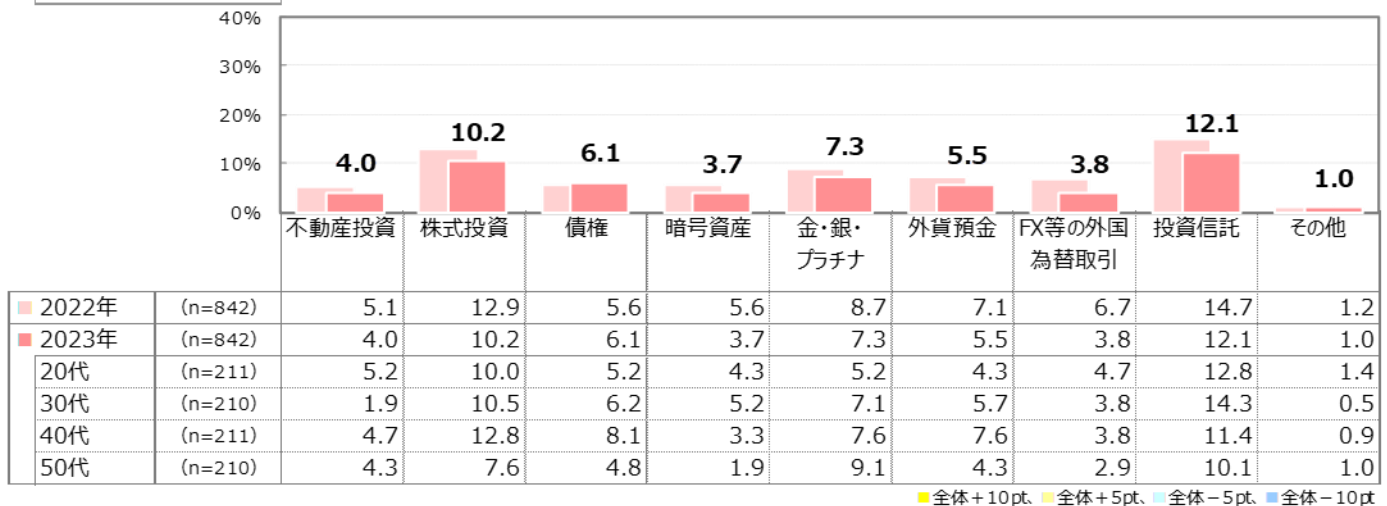
設問：以下の項目についての、あなたの現在の投資状況について当てはまるものをお答えください。

女性社員

現在、投資をしている



検討中



【9】 FIRE(経済的自立と早期リタイア)についての認知及び実施状況

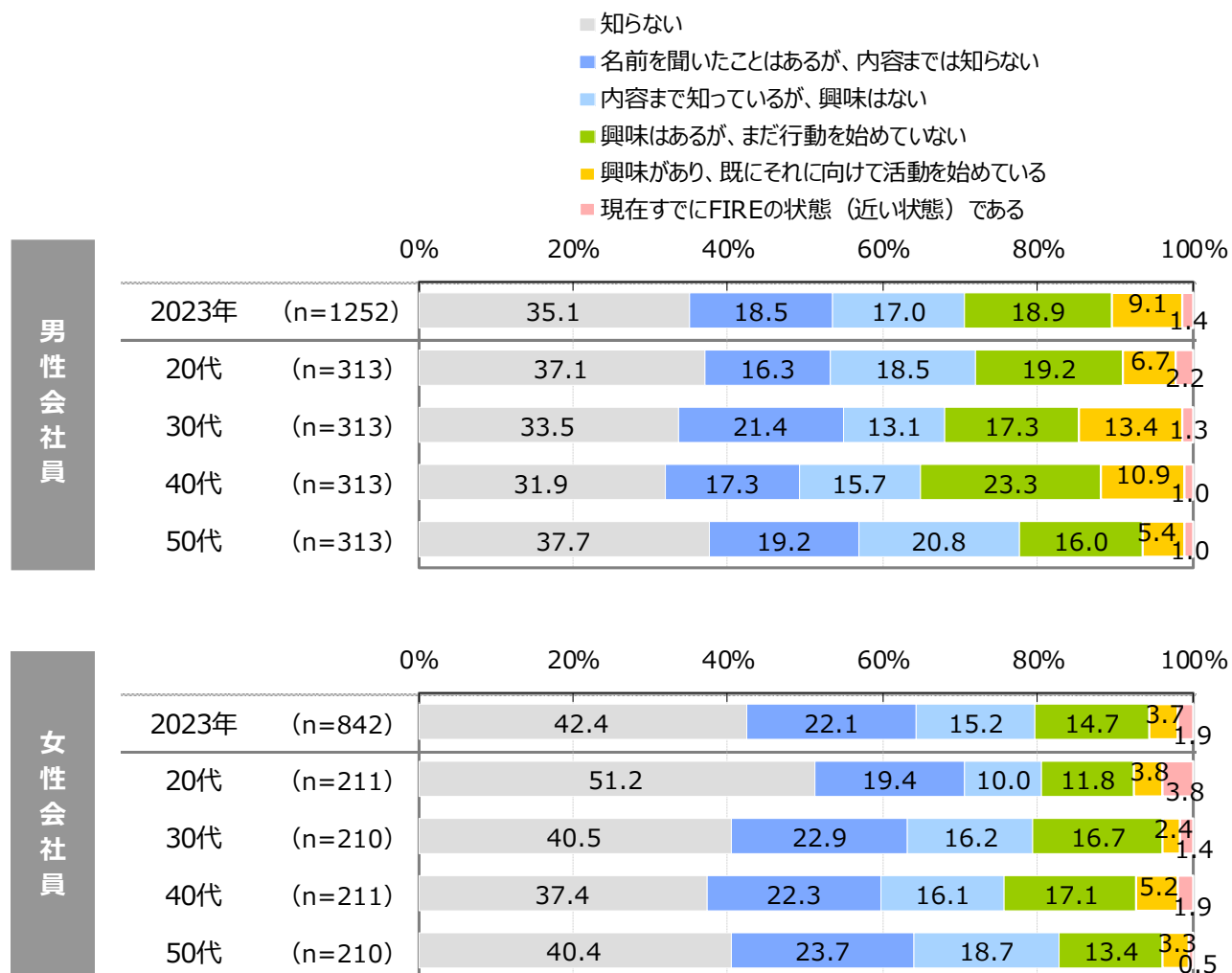
- ▶ 男性会社員では、「知らない」が35.1%、次いで「興味はあるが、まだ行動を始めていない」が18.9%、「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が18.5%と続く。なお、「現在すでにFIREの状態(近い状態)である」については1.4%にとどまる
- ▶ 女性会社員では、「知らない」が42.4%、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」22.1%、「内容まで知っているが、興味はない」が15.2%と続く。なお、「現在すでにFIREの状態(近い状態)である」については1.9%にとどまる

■ FIRE(経済的自立と早期リタイア)についての認知及び実施状況

FIREについて、男性会社員では、「知らない」が35.1%で最も高く、「興味はあるが、まだ行動を始めていない」18.9%、「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」18.5%が続いております。なお、「現在すでにFIREの状態(近い状態)である」については1.4%にとどまります。

女性会社員では、「知らない」が42.4%となり、男性会社員より7pt非認知率が高くなっております。他に高いものとして、「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」22.1%、「内容まで知っているが、興味はない」15.2%が続いております。なお、「現在すでにFIREの状態(近い状態)である」については1.9%にとどまります。年代別にみると、20代の「知らない」が5割を越えているものの、「現在すでにFIREの状態(近い状態)である」が3.8%で最も高い点の特徴です。

設問： FIRE(経済的自立と早期リタイア)についての、あなたの認知状況や行動として、どの段階にあてはまるかお答えください。



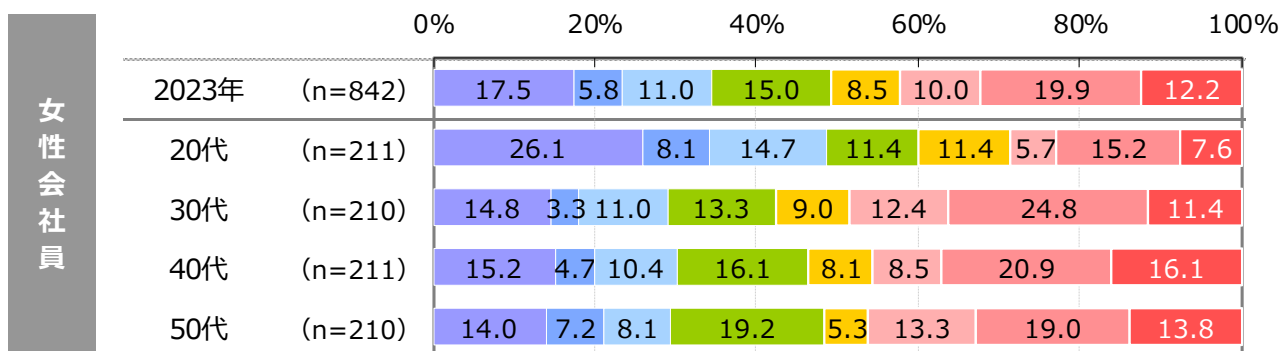
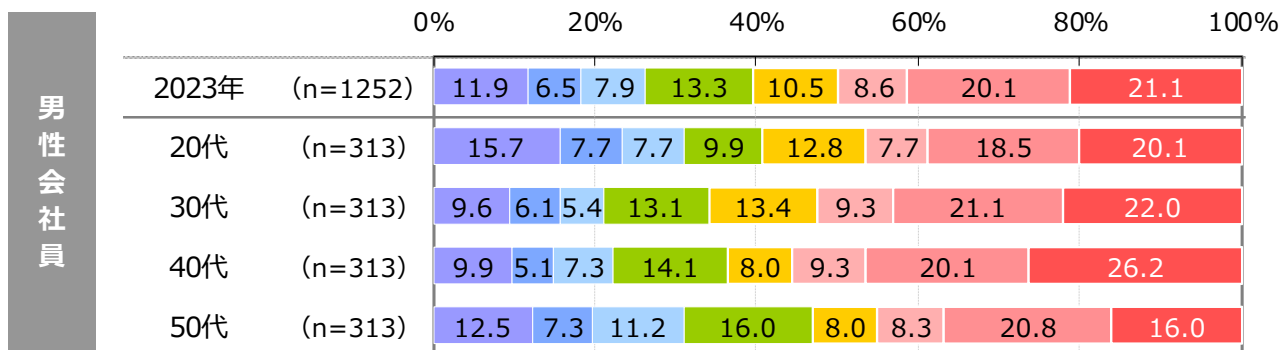
■ FIRE(経済的自立と早期リタイア)に必要と想定する貯蓄額

FIREに必要と想定する貯蓄額について、男性会社員では、「1億円以上」が21.1%で最も高く、「5,000万円～1億円未満」20.1%と続きます。年代別にみても同様の傾向がみられます。

女性会社員では、「5,000万円～1億円未満」が19.9%で最も高く、「500万円未満」17.5%、「2,000万円～3,000万円」15.0%となり、男性会社員とは回答傾向が異なります。年代別にみると、特に20代では「500万円未満」が高く、「5,000万円～1億円未満」が低い傾向がみられます。30代以上では「5,000万円～1億円未満」「1億円以上」の割合が20代より高い傾向がみられます。

設問：FIRE(経済的自立を早期リタイア)の目標である経済的自立を達成するために、どの程度の貯蓄を必要だと思いますか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 500万円未満
- 500万円～1,000万円未満
- 1,000万円～2,000万円未満
- 2,000万円～3,000万円未満
- 3,000万円～4,000万円未満
- 4,000万円～5,000万円未満
- 5,000万円～1億円未満
- 1億円以上

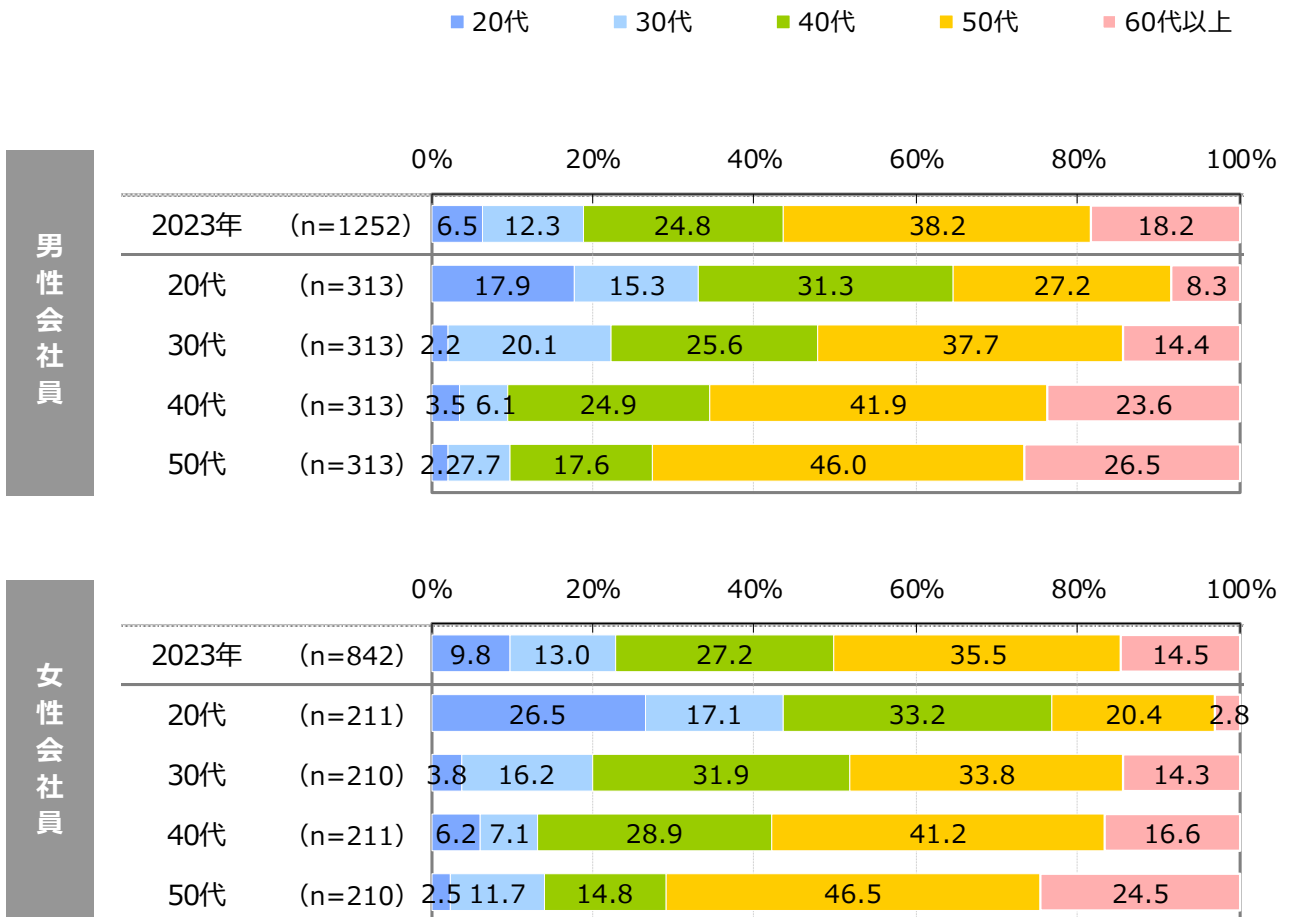


■ FIRE(経済的自立と早期リタイア)のために経済的自立を達成すべき年齢

FIREのために経済的自立を達成すべき年齢について、男性会社員では、「50代」が38.2%で最も高く、「40代」24.8%、「60代以上」18.2%と続きます。年代別にみると、年代が上がるごとに「50代」「60代以上」の割合が大きくなる傾向がみられます。

女性会社員では、男性会社員と同様「50代」が35.5%で最も高く、「40代」27.2%、「60代以上」14.5%と続きます。年代別にみると、こちらも男性会社員と同様、年代が上がるごとに「50代」「60代以上」の割合が大きくなる傾向がみられます。また20代では「20代」が26.5%と高く、30代以上の傾向と異なります。

設問：FIRE(経済的自立を早期リタイア)の目標である早期リタイアをするために、どの程度の年齢で経済的自立を達成する必要があると思いますか。あてはまるものをひとつ選んでください。



【10】 老後資金についての検討状況

- ▶ 男女ともに「考えているが、具体的な行動の目途はない」がトップで、男性会社員で31.6%、女性会社員で42.2%となる
- ▶ 年代が上がるごとに「全く考えていない」の割合は低くなるが、男性50代では「全く考えていない」と「ほとんど考えていない」の合計が3割を超え、女性50代と比較して老後資金について考えていない割合が高い

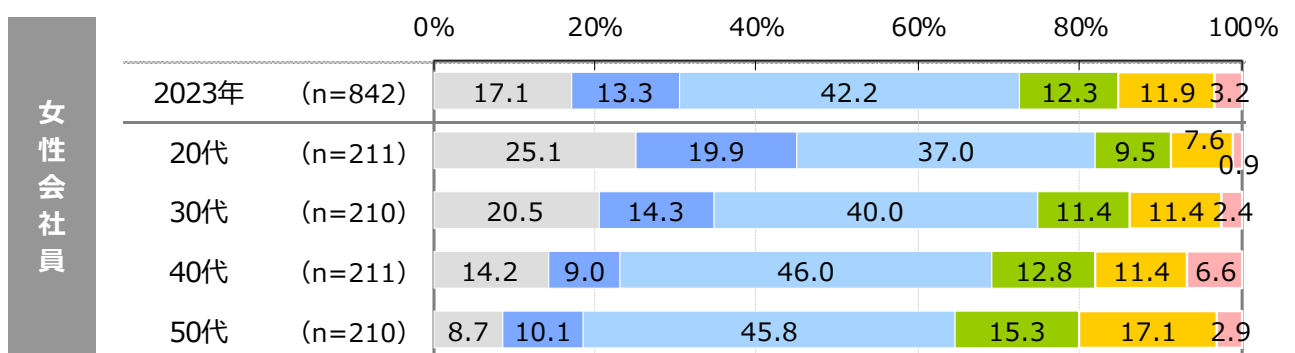
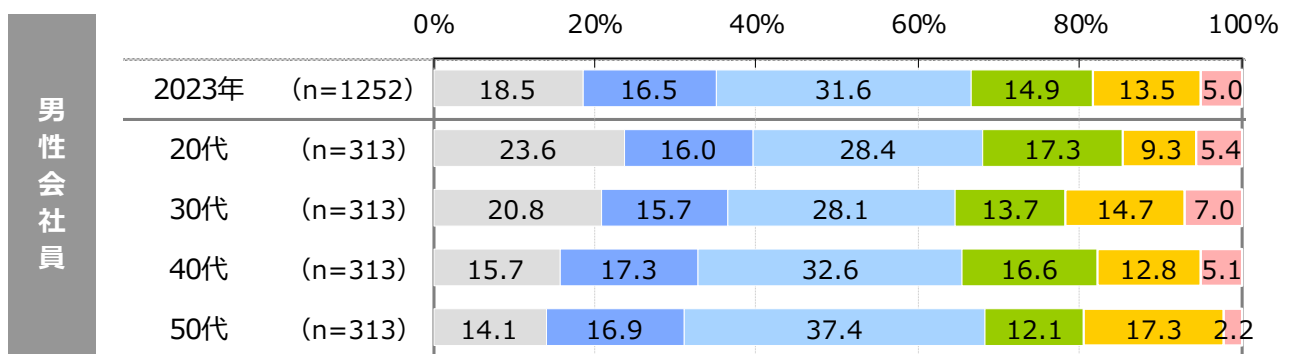
■ 老後資金についての検討状況

老後資金についての検討状況について、男性会社員では、「考えているが、具体的な行動の目途はない」が31.6%を占めます。「全く考えていない」18.5%、「ほとんど考えていない」16.5%と続きます。年代別にみると、年代が上がるごとに「全く考えていない」が低くなる一方、「考えているが、具体的な行動の目途はない」が増加しております。行動に移している人は30代以上では2割前後で年代による差異はみられない様子が窺えます。

女性会社員では、「考えているが、具体的な行動の目途はない」が42.2%となり、「全く考えていない」17.1%、「ほとんど考えていない」13.3%と続きます。年代別にみると、年代が上がるごとに「全く考えていない」が低くなる一方、「考えており、そのための行動を開始しようとしている」「ざっくりとした計画があり、既に行動に移している」が増加しております。

設問：自分の老後資金について、どの程度考えていますか。

- 全く考えていない
- ほとんど考えていない
- 考えているが、具体的な行動の目途はない
- 考えており、そのための行動を開始しようとしている
- ざっくりとした計画があり、既に行動に移している
- 具体的な計画があり、既に行動に移している



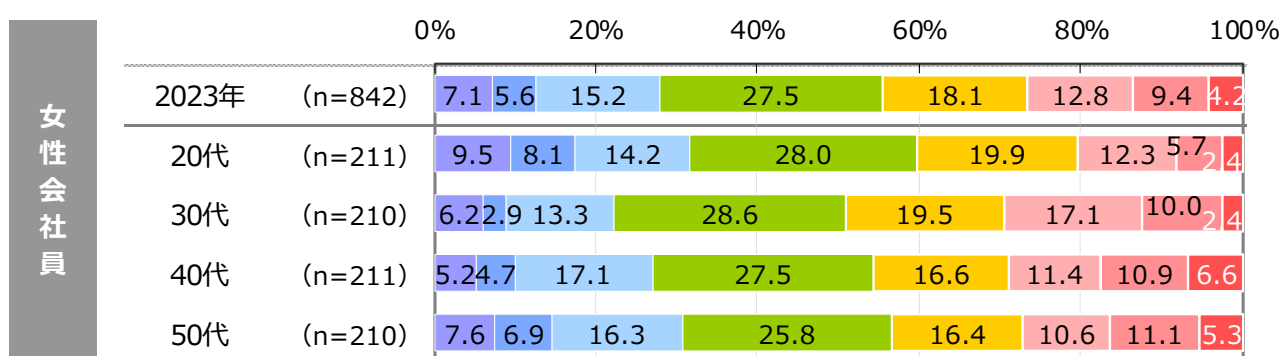
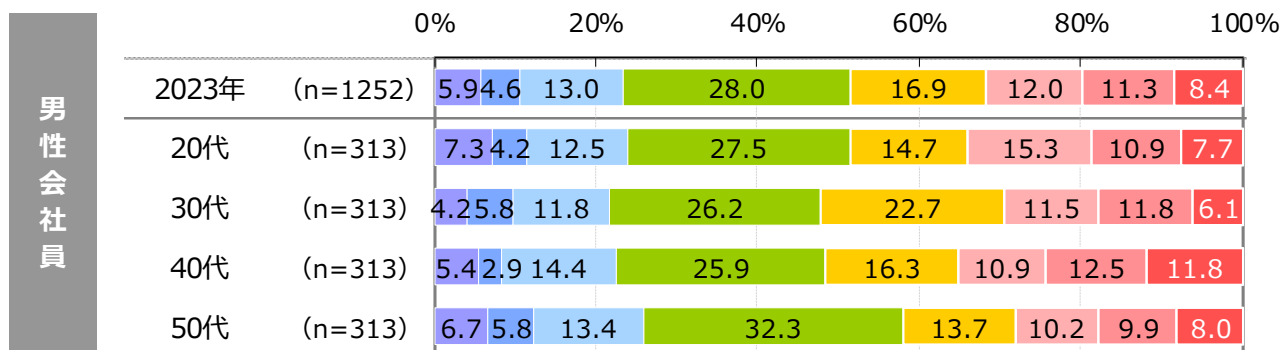
■ 老後のために必要と想定する資金額

老後のために必要と想定する資金額について、男性会社員では、「2,000万円～3,000万円未満」が28.0%を占めます。年代別にみると、いずれの年代でも「2,000万円～3,000万円未満」が最も多い傾向がみられます。

女性会社員では、男性会社員と同様、「2,000万円～3,000万円未満」が27.5%となり、「3,000万円～4,000万円未満」18.1%、「1,000万円～2,000万円未満」15.2%と続きます。年代別にみると、男性会社員と同様、いずれの年代でも「2,000万円～3,000万円未満」が最も多い傾向がみられます。

設問：自分が老後に必要とする資金は、どの程度だと考えていますか。

- 500万円未満
- 500万円～1,000万円未満
- 1,000万円～2,000万円未満
- 2,000万円～3,000万円未満
- 3,000万円～4,000万円未満
- 4,000万円～5,000万円未満
- 5,000万円～1億円未満
- 1億円以上

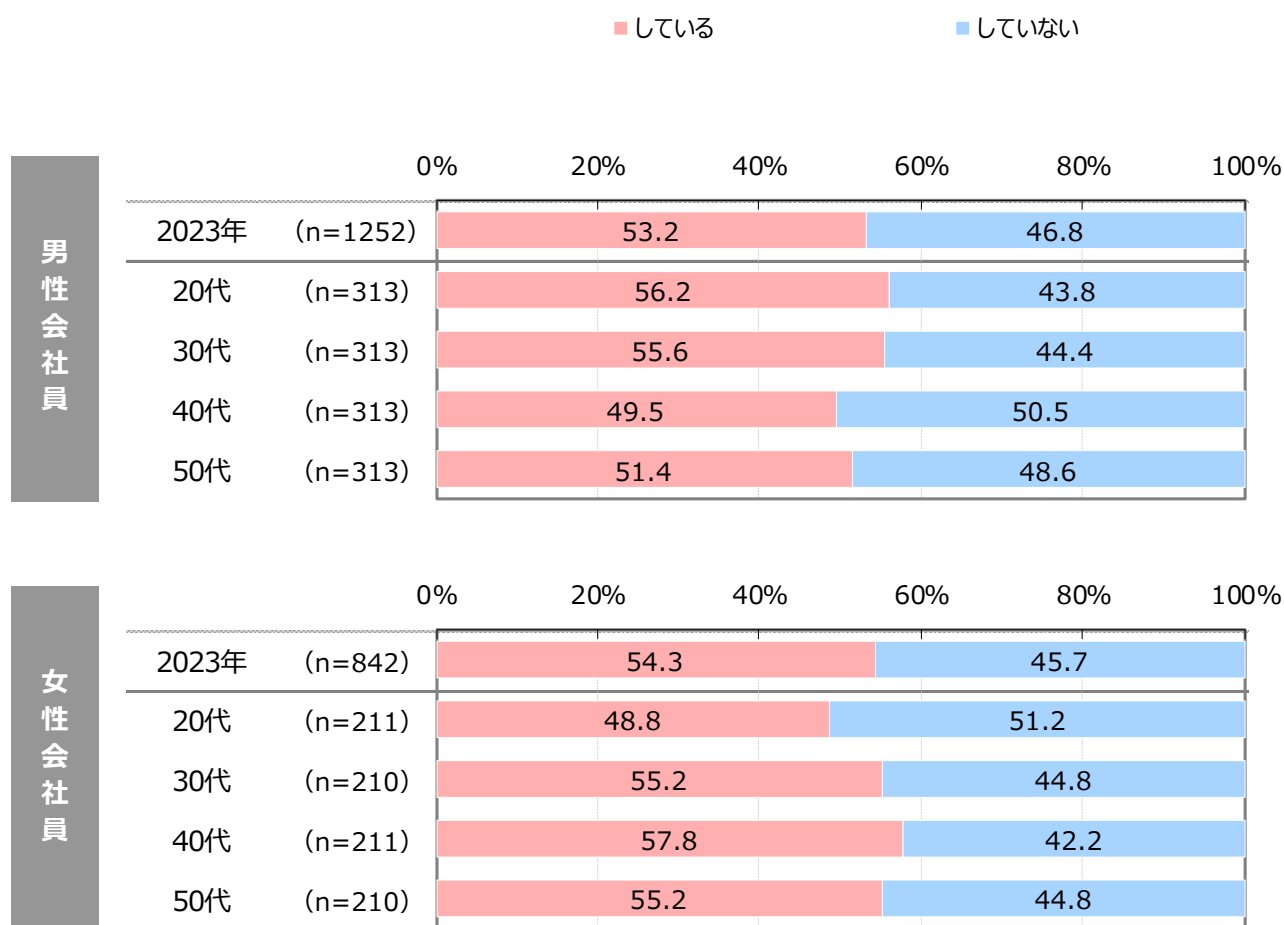


■ 老後資金の確保のための投資や貯蓄

老後資金の確保のための投資や貯蓄について、男性会社員では、「している」が53.2%、「していない」が46.8%となりました。年代別でみると、20代と30代では「している」が5割半ば、40代と50代では「している」と「していない」が大体半分ずつの割合となり、若い世代の方が投資や貯蓄をしている割合がやや多い様子が窺えます。

女性会社員では、「している」が54.3%、「していない」が45.7%となりました。年代別でみると、30代～50代では「している」が5割半ばである一方、20代では48.8%に留まる結果となりました。男性会社員とは異なり、20代では投資や貯蓄をしている割合はやや少なく、30～50代の方が老後に必要とする投資や貯蓄を行っている様子が窺えます。

設問：自分が老後に必要とする資金を確保するために、投資や貯蓄をしていますか。



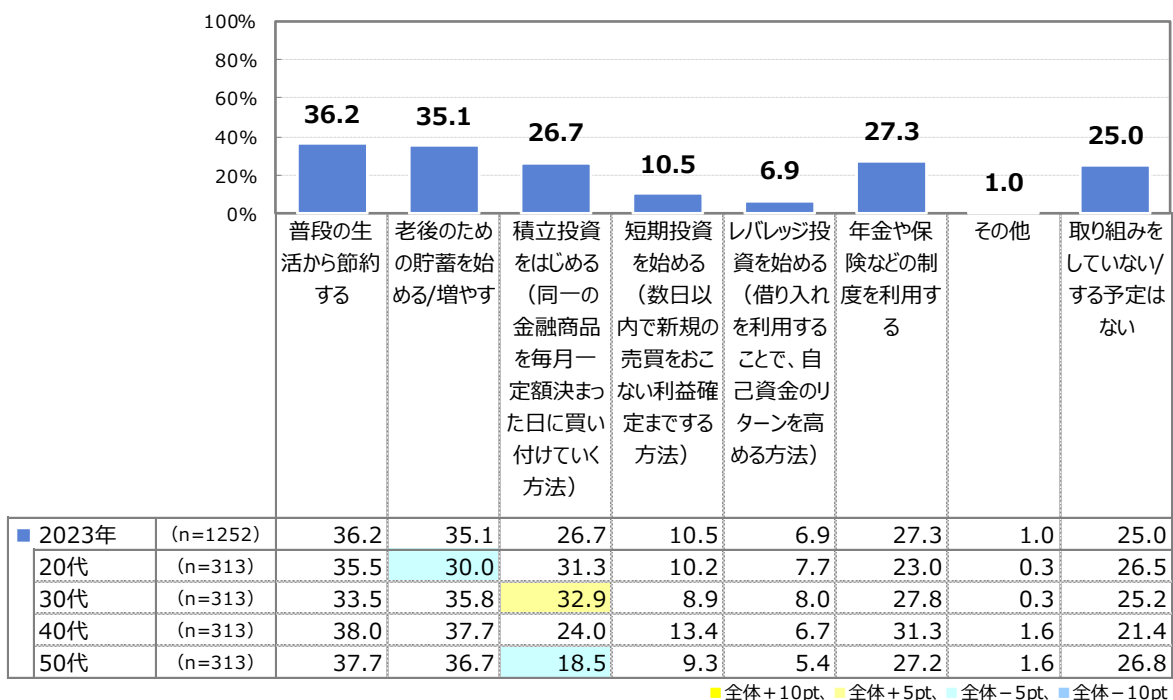
■ 老後資金の確保のための取り組み

老後資金の確保のための取り組みについて、男性会社員では、「普段の生活から節約する」が36.2%を占めます。「老後のための貯金を始める/増やす」35.1%と続きます。「取り組みをしていない/する予定はない」も25.0%と一定数いらっしゃる事が分かります。

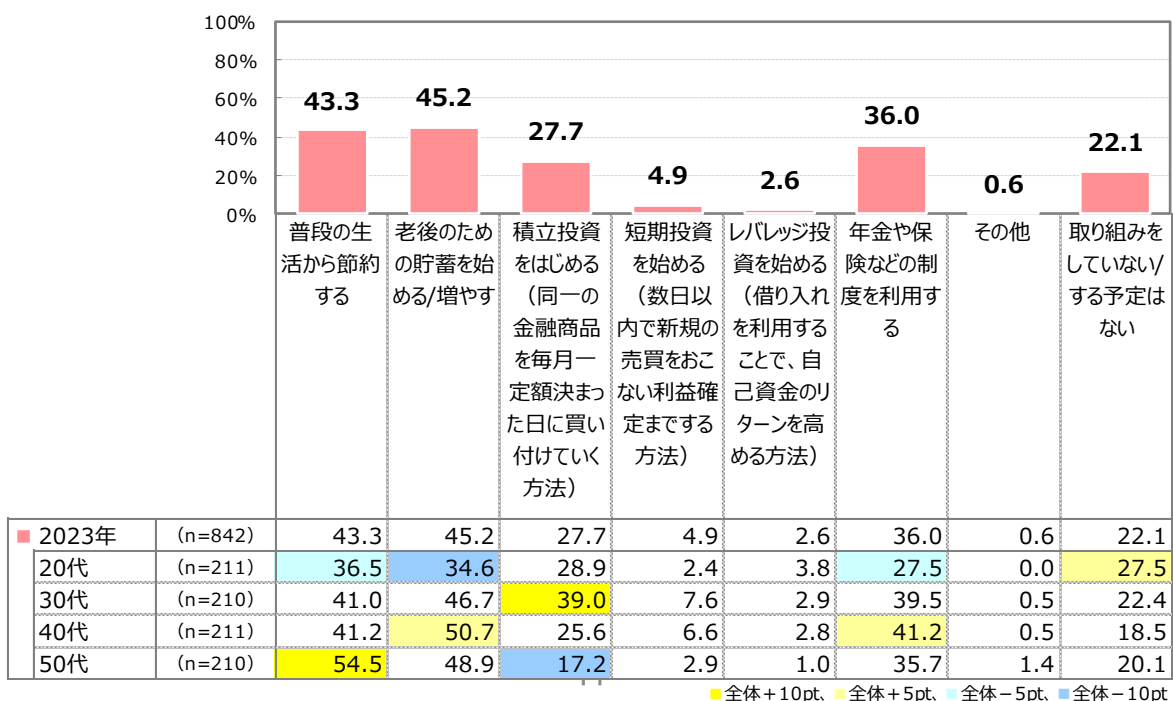
女性会社員においては、「老後のための貯金を始める/増やす」が45.2%と最も高いです。次いで、「普段の生活から節約する」43.3%、「年金や保険などの制度を利用する」36.0%が続きます。年代別にみると、年代が上がるごとに「普段の生活から節約する」が増加しております。

設問：老後資金を確保するために、どのような取り組みをする予定ですか。
 あてはまるものをすべて選んでください。

男性会社員



女性会社員



【11】 デジタル給与についての認知及び実施状況

- ▶ 男性会社員は、「知らない」がトップで34.5%、次いで「内容まで知っているが、利用したいとは思わない」が30.0%と続く。なお、「既に利用している」は1.8%にとどまる
- ▶ 女性会社員は、「知らない」がトップで36.3%、次いで「名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない」が27.9%と続く。なお、「既に利用している」は1.9%にとどまる

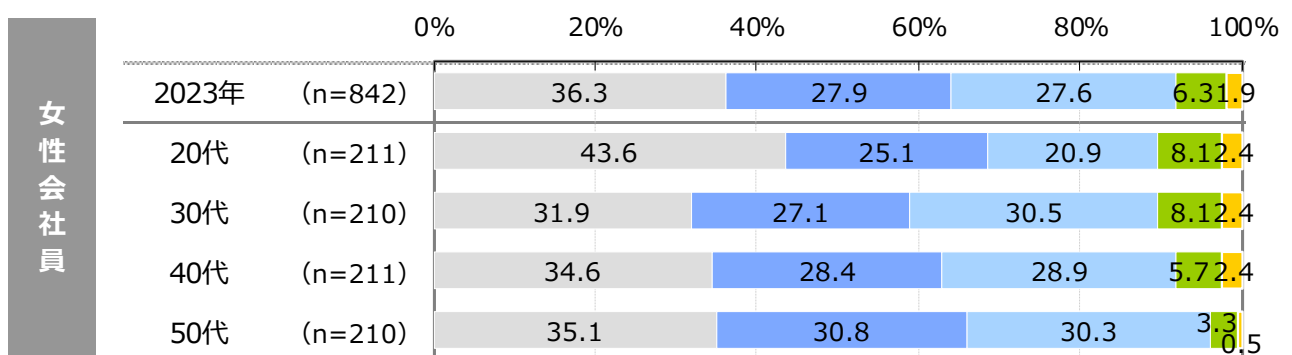
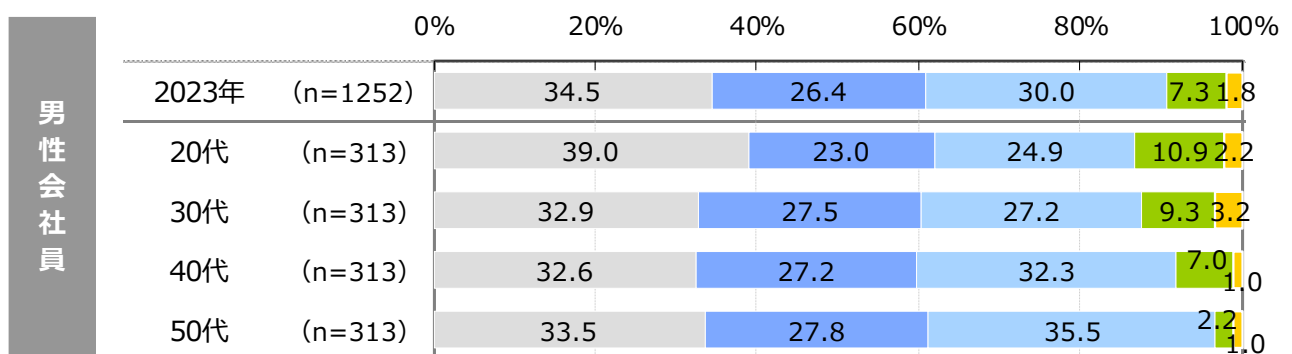
■ デジタル給与についての認知や利用意向

デジタル給与についての認知や利用意向について、男性会社員では、「知らない」が34.5%と最も高く、「内容まで知っているが、利用したいとは思わない」30.0%と続き、「既に利用している」は1.8%にとどまる結果となっております。年代別にみると、「内容まで知っており、機会があれば利用したいと思っている」と「既に利用している」を足した割合は若年層ほど多くなっております。

女性会社員では、「知らない」が36.3%が最も高く、「名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない」27.9%と続き、「既に利用している」は1.9%にとどまる結果となっております。年代別にみると、男性会社員と同様、「内容まで知っており、機会があれば利用したいと思っている」と「既に利用している」を足した割合は若年層ほど多くなっております。

設問：デジタル給与についての、あなたの現在の認知や利用意向としてあてはまるものをお答えください。

- 知らない
- 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない
- 内容まで知っているが、利用したいとは思わない
- 内容まで知っており、機会があれば利用したいと思っている
- 既に利用している



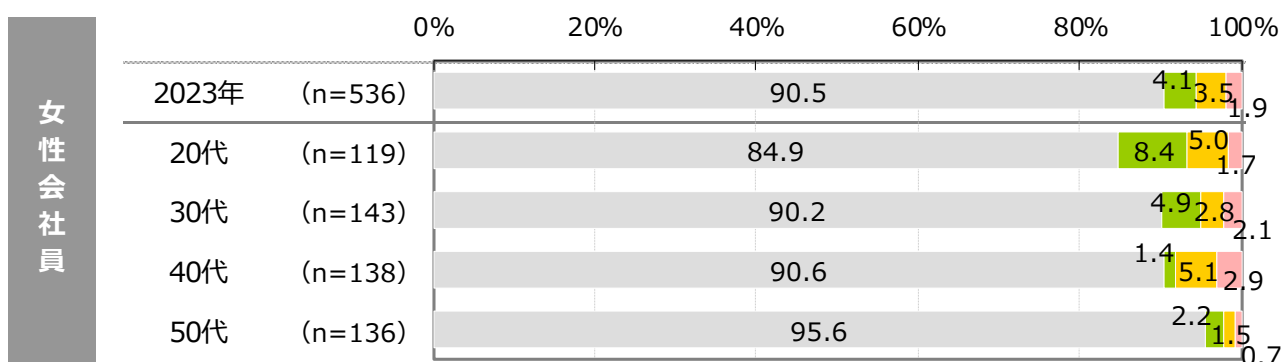
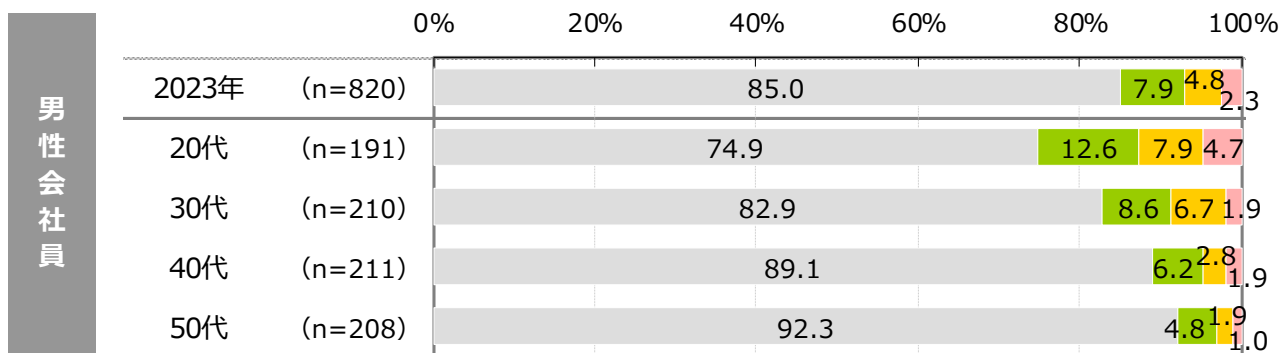
■ 現在所属する会社(副業先含め)でのデジタル給与についての状況

現在所属する会社(副業先含め)でのデジタル給与についての状況について、男性会社員では、「開始される予定はない/開始される通知を受け取っていない」が85.0%を占めます。年代別にみると、「開始される予定がある(2023年度内)」「開始される予定がある(2024年度以降/時期不明)」「既に開始している」を足した割合は若年層ほど多くなっております。

女性会社員では、「開始される予定はない/開始される通知を受け取っていない」が90.5%を占めます。年代別にみると、男性会社員と同様、「開始される予定がある(2023年度内)」「開始される予定がある(2024年度以降/時期不明)」「既に開始している」を足した割合は若年層ほど多くなっております。

設問：デジタル給与についての、あなたの現在の認知や利用意向としてあてはまるものをお答えください。

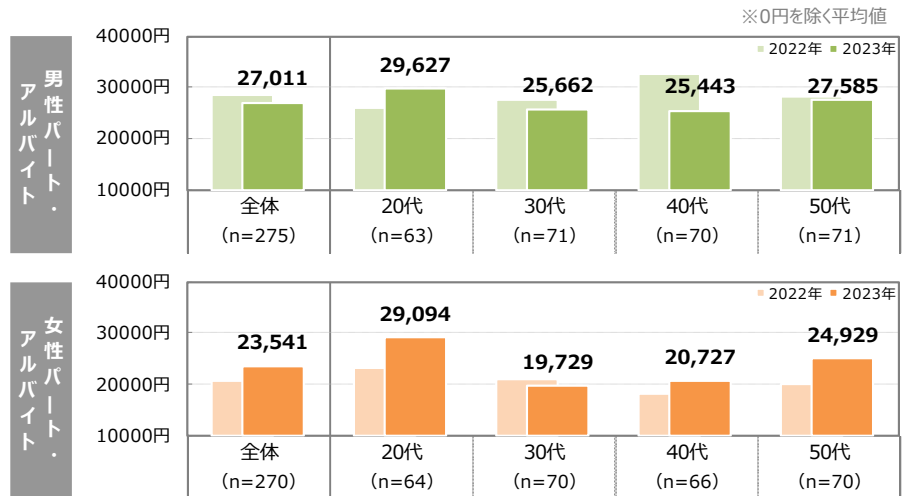
- 開始される予定はない/開始される通知を受け取っていない
- 開始される予定がある(2023年度内)
- 開始される予定がある(2024年度以降/時期不明)
- 既に開始している



【12】パート・アルバイトの基本データ

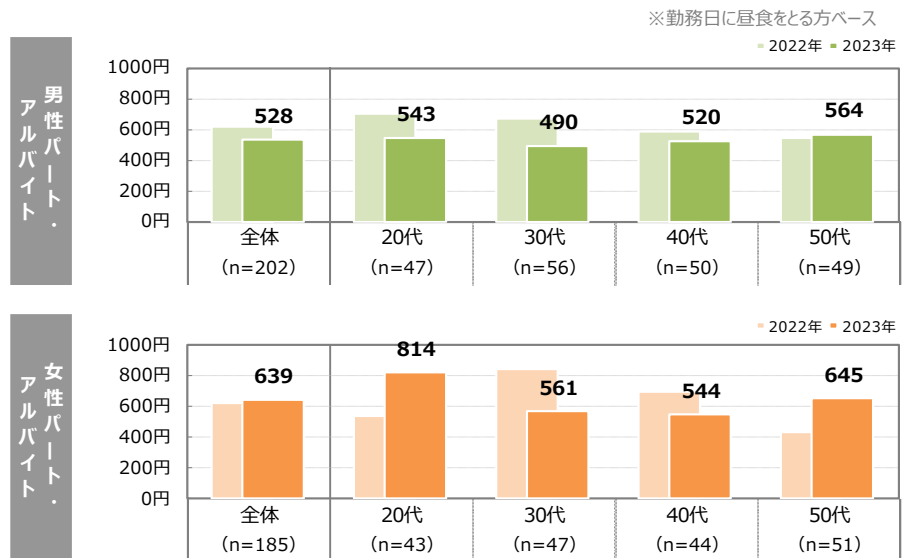
■ お小遣い

1カ月の平均お小遣い額



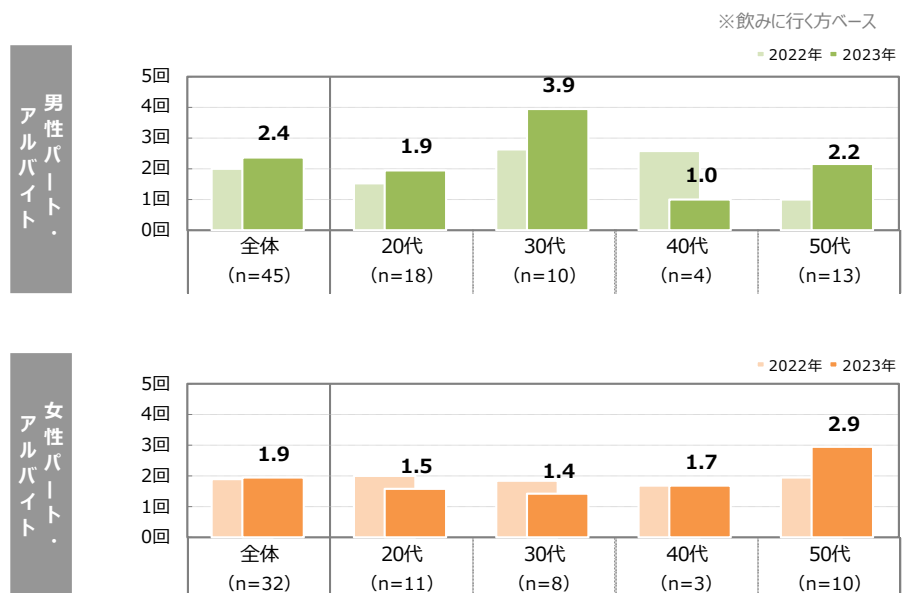
■ 昼食事情

1日の平均昼食代



■ 飲み事情

1カ月の平均飲み回数

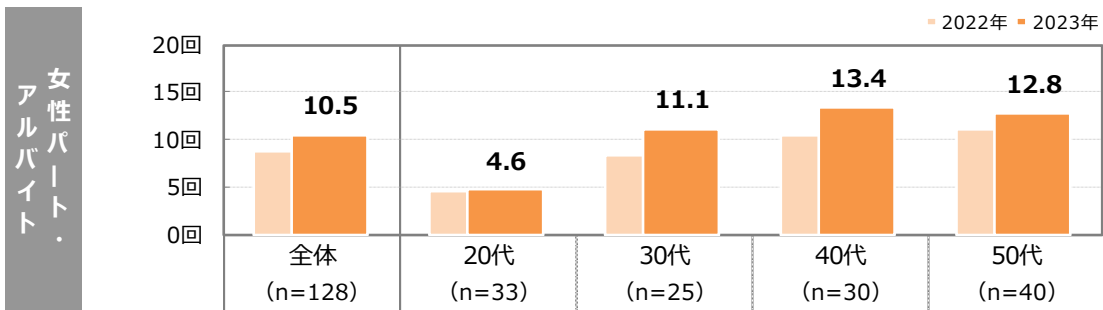
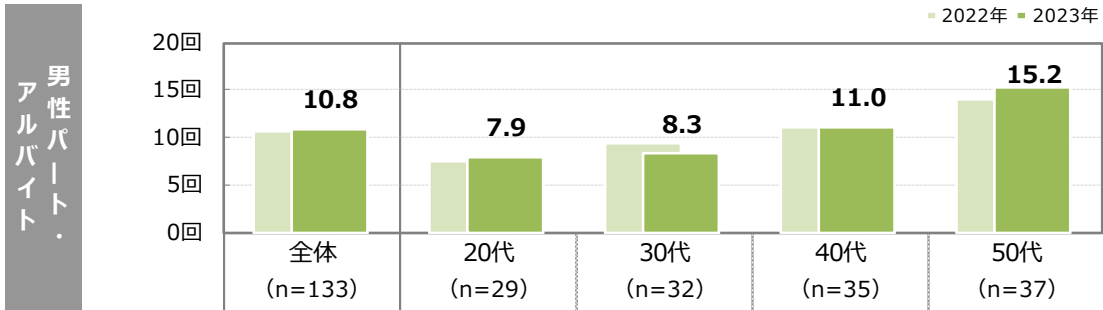


※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1ヵ月の家飲み回数

※自宅で飲む方ベース



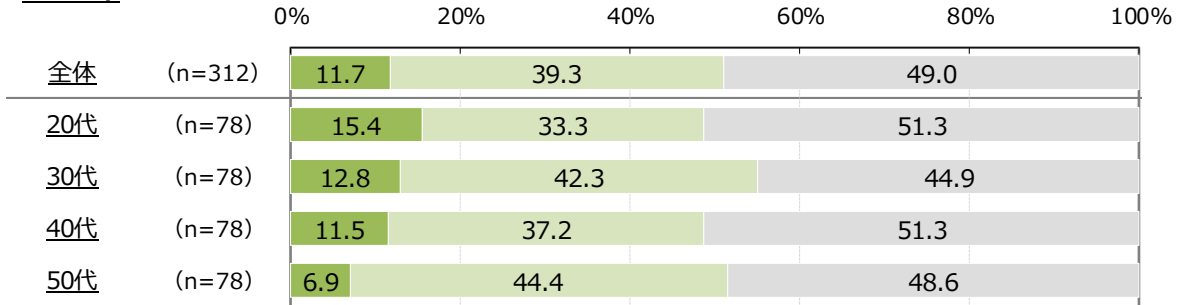
■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代

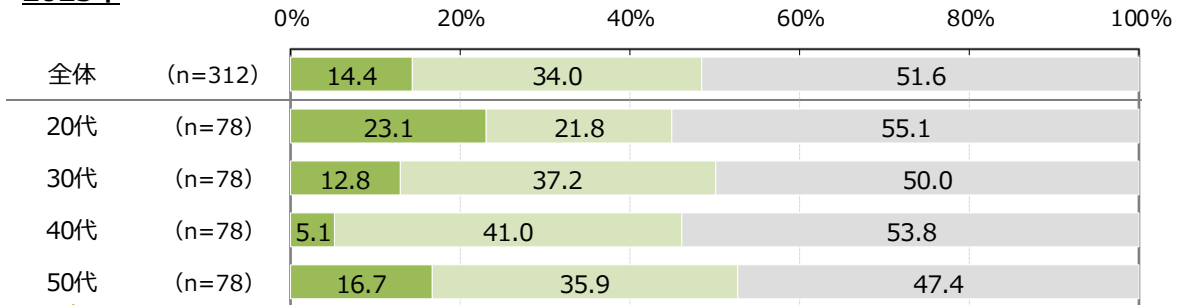
男性パート・アルバイト

■ 飲みに行く ■ 飲みに行かない(自宅では飲む) ■ そもそもお酒は飲まない

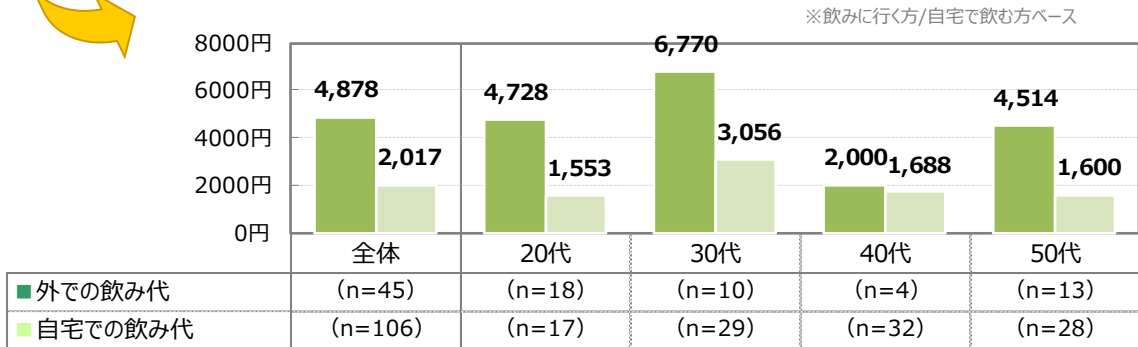
2022年



2023年



1回の平均飲み代は・・・？



※n=30未満は参考値として掲載

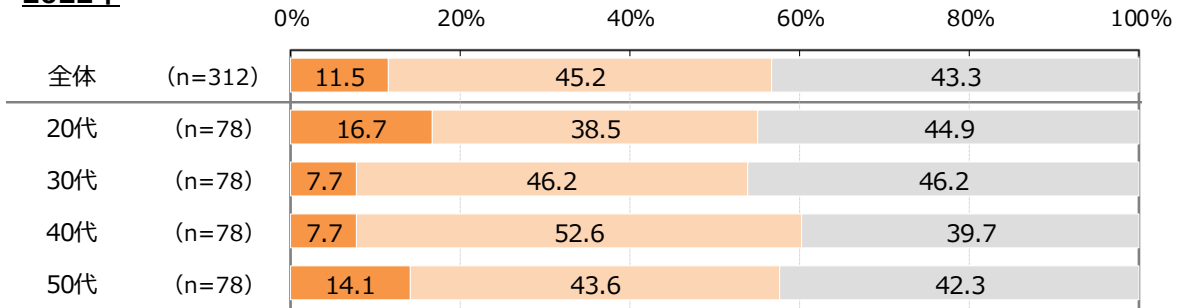
■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代

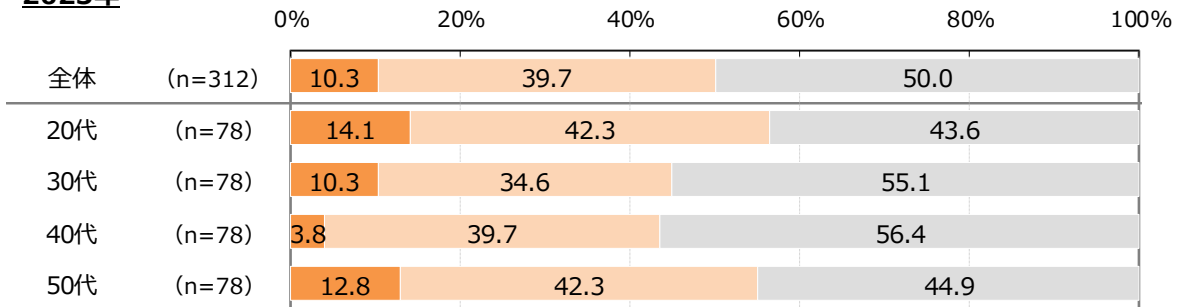
女性パート・アルバイト

■ 飲みに行く ■ 飲みに行かない(自宅では飲む) ■ そもそもお酒は飲まない

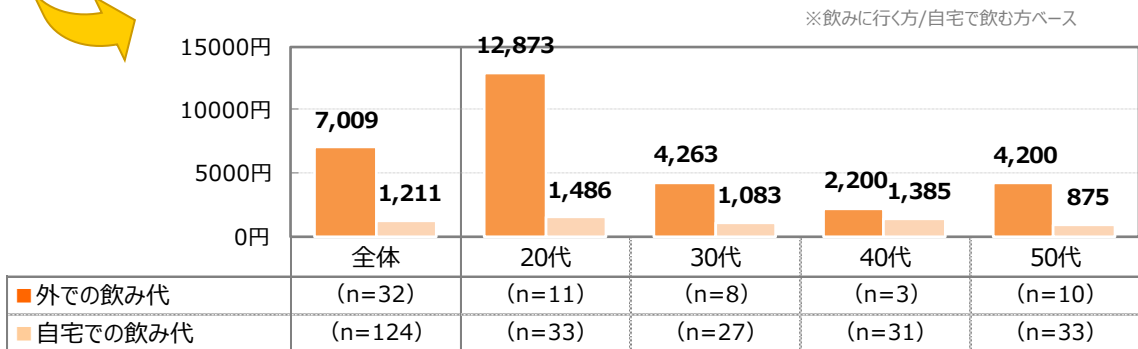
2022年



2023年



1回の平均飲み代は・・・？

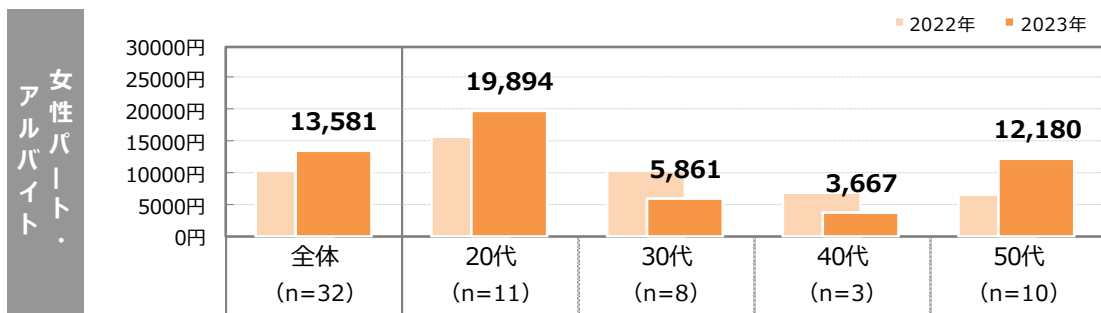
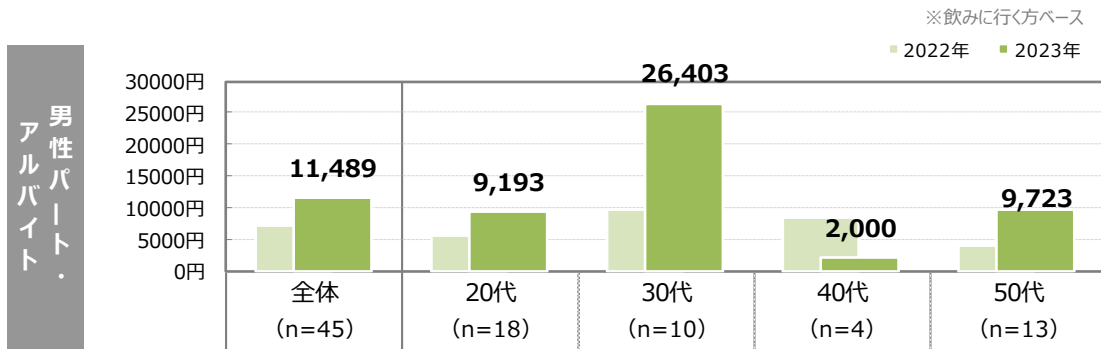


※飲みに行く方/自宅で飲む方ベース

※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1ヵ月の平均飲み代



※n=30未満は参考値として掲載